「下切工業団地」造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

下切兎田古窯

1985. 3

岐阜県可児市教育委員会

序　　文

下切兎田古窯の調査が完了しました。この地に平安時代の窯跡が存在することは，関係者の間で以前から知られてはいましたが，その実体は全く不明でした。

この度，可児市下切地区の丘陵に，下切工業団地の開発が計画され，この古窯跡がどうしても現状保存できなくなりました。

そこで，事前に発掘調査を行って，記録に残すことになりました。

発掘された数々の陶片，窯体などからは，往時の窯業の一側面がうかがわれ，高度の技術をもった陶工たちが，可児の地で優れた陶器を生み出していた昔が偲ばれます。

調査にあたりましては，寒風の中，現場作業に従事していただきました，下切地区の皆様をはじめ，終始ご指導を賜わりました県教育委員会文化課，その他関係者の皆様に感謝の意を表します。

また，この報告書が，美濃窯業史の一資料として，少しでもお役に立つことを願ってやみません。

昭和60年３月

可児市教育長　　工　藤　新　二

例　　言

1. 本報告書は，岐阜市可児市下切地内の工業団地造成工事に伴い，下切字大知洞708番地の1に所在する下切兎田古窯の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の主体は，可児市教育委員会であり，調査体制は次のとおりである。

団　　長	可児市教育長	工藤新二	
調査指導	県教委文化課	波多野寿勝	
調査担当	市教委社会教育課	長瀬治義	
	市教委社会教育課	大沢勇雄	
作業員	飯田春夫	飯田みさを	井上練三
	大久保嘉暁	可児すず子	佐橋秋夫
	高田秀雄	高田正江	中島正勝
	藤田みよ子	本間二郎	前田鉦三
	三宅　貢	渡辺一枝	渡辺すみへ
	渡辺留子		
整理作業員	池田成子	大久保嘉暁	大梅奈美
	亀谷　喬	渡辺裕代	
事務局	市教委社会教育課		
課長	奥村照雄	課長補佐	三宅愛男
係長	奥村　正		
	梅本銀次	各務洋子	豊吉常晃
	所　美恵子	金子時子	
市文化財	佐藤鎖平	続木　正	安藤寿作
審議会委員	稲垣雄之助	上野晃司	奥谷一勝
	金子一郎	中島勝国	平田録郎
	森川益三		

3. 熱残留地磁気測定は，富山大学理学部教授　広岡公夫先生に委託した。
4. 遺物の胎土等の分析は，岐阜県陶磁器試験場長　朽名重治氏にお願いした。
5. 本書の執筆は，長瀬が行なった。

遺物の整理，実測，計測，トレース，図面整理，写真撮影は，大沢以下整理作業員が行

なった。

6. 発掘調査及び整理作業にあたり，次の団体及び諸氏にご指導．ご協力を賜わりました。厚く謝意を表します。

可児市土地開発公社

多治見市教育委員会　田口昭二　若尾正成

7. 発掘調査及び整理作業並びに本書刊行に要した経費は２５６万円であり，半額を昭和59年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査補助金でまかなった。

8. 本報告書掲載資料のすべては，可児市教育委員会において保管する。

9. ３，の測定結果については，後日添付する。

凡　　例

1. 方位は，磁北である。
2. 遺構の長さ，幅等の計測値については，すべて水平若しくは垂直距離である。
3. 本文中の，右．左の呼称は，窯体に向かっての方向である。
4. 断面図及び測量図に使用したレベルは仮のものであり，仮原点の標高は142.64mである。
5. 遺物実測図の——ラインは、自然釉のラインである。

目　　次

序　文

例言．凡例

目次．挿図目次．図版目次

Ⅰ　発掘調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　下切兎田古窯の立地と環境 …… 2

Ⅲ　発掘調査の経過 …… 4

Ⅳ　遺　構 …… 9

Ⅴ　遺　物 …… 16

Ⅵ　焼成回数，生産量について …… 23

Ⅶ　下切兎田古窯出土遺物の化学分析 …… 35

Ⅷ　結　語 …… 37

椀・小皿計測表 …… 38

図　版

挿図目次

挿図1　岐阜県可児市周辺の白瓷窯と山茶椀窯分布図
挿図2　下切兎田古窯付近地形図
挿図3　現況地形測量図
挿図4　調査後地形測量図
挿図5　右袖部遺物出土状態実測図
挿図6　窯体実測図
挿図7　前庭部実測図
挿図8　灰原断面実測図
挿図9　椀の高台分類
挿図10　焼成室焼台配置復原図
挿図11　灰原出土椀（1）
挿図12　灰原出土椀（2）
挿図13　灰原出土椀（3）
挿図14　灰原・右袖部出土椀（1）
挿図15　右袖部出土椀（2）
挿図16　右袖部・窯内出土椀
挿図17　灰原出土小皿
挿図18　灰原・右袖部出土小皿
挿図19　右袖部・窯内出土小皿及び焼台
挿図20　出土遺物
挿図21　出土遺物

図版目次

図版1　調査前全景
図版2　窯体上面プラン検出
図版3　窯体全景
図版4　煙道部
図版5　焼成室
図版6　燃焼室，分炎柱（正面より）
図版7　天井壁残存状況（焼成室より）
図版8　焼成室下部遺物出土状況
図版9　原位置を保つ焼台
図版10　焼成室右壁
図版11　天井壁にみられる粘土の貼付
図版12　焚口右袖部遺物出土状況
図版13　焚口右袖部
図版14　調査後全景
図版15　窯体断ち割り状況
図版16　窯体焼成室断面
図版17　分炎柱断面
図版18　分炎柱断面にみられるスサ入粘土の貼り付け
図版19　前庭部平坦面の断ち割り，排水溝左袖部
図版20　前庭部ピット
図版21　灰原断面
図版22　灰原出土椀
図版23　右袖部・窯内出土椀
図版24　灰原出土小皿
図版25　右袖部・窯内出土小皿
図版26　出土遺物
図版27　出土遺物

Ⅰ　発掘調査に至る経過

昭和58年　可児市が，可児市下切字大知洞696番地の１　他397筆に，下切工業団地の造成を計画した。

可児市教育委員会では，早々，造成計画区域内の埋蔵文化財分布調査を行い，県教育委員会立会のもと字大知洞708番地の１地内に１箇所の古窯跡（兎田古窯Ｇ34Ｋ04734）を確認した。

その後，この古窯跡の保存，保護について，市当局・施工主である可児市土地開発公社・県教育委員会など関係機関と協議を重ねた。しかしどうしても，造成計画の切土面に入るため，現状保存は，不可能であるとの結論に至り，事前に発掘調査を行なって記録保存を図ることとなった。

この結論に基づき，昭和59年12月12日付けで文化財保護法57条の３第１項及び98条の２第１項の通知を県教育長あて進達した。

ここにおいて，可児市教育委員会主体による事前発掘調査を同年12月20日より開始する運びとなった。

Ⅱ　下切兎田古窯の立地と環境

可児市は，岐阜市の東方約30kmのところに位置し，東は御嵩町，南は土岐市・多治見市，西は愛知県犬山市，北は美濃加茂市と隣接している。

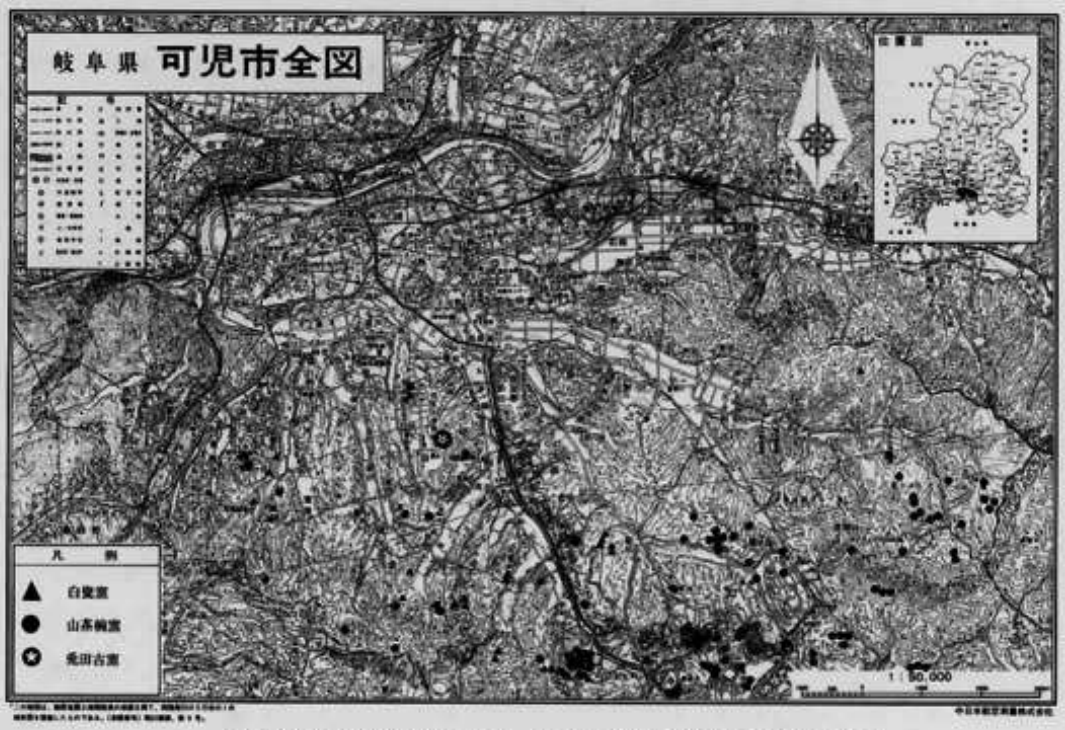
地質的には，秩父古生層が陥没してできた美濃加茂盆地の南にあり，木曽川や可児川が開折した河岸段丘の平坦部と周囲の丘陵部に大別される。この丘陵は，主に瀬戸層群の粘土層の上に土岐砂礫層が堆積してできたものであるが，土地砂礫層中にも粘土塊をみることができる。

兎田古窯は行政区として可児市下切字大知洞708番地の１に立地する。

本窯は，北東に延びる尾根頂上付近の北西斜面に，土岐砂礫層をくり抜いて構築されており，標高140m程，谷水の流れる地点までの比高差は約15mを測る。

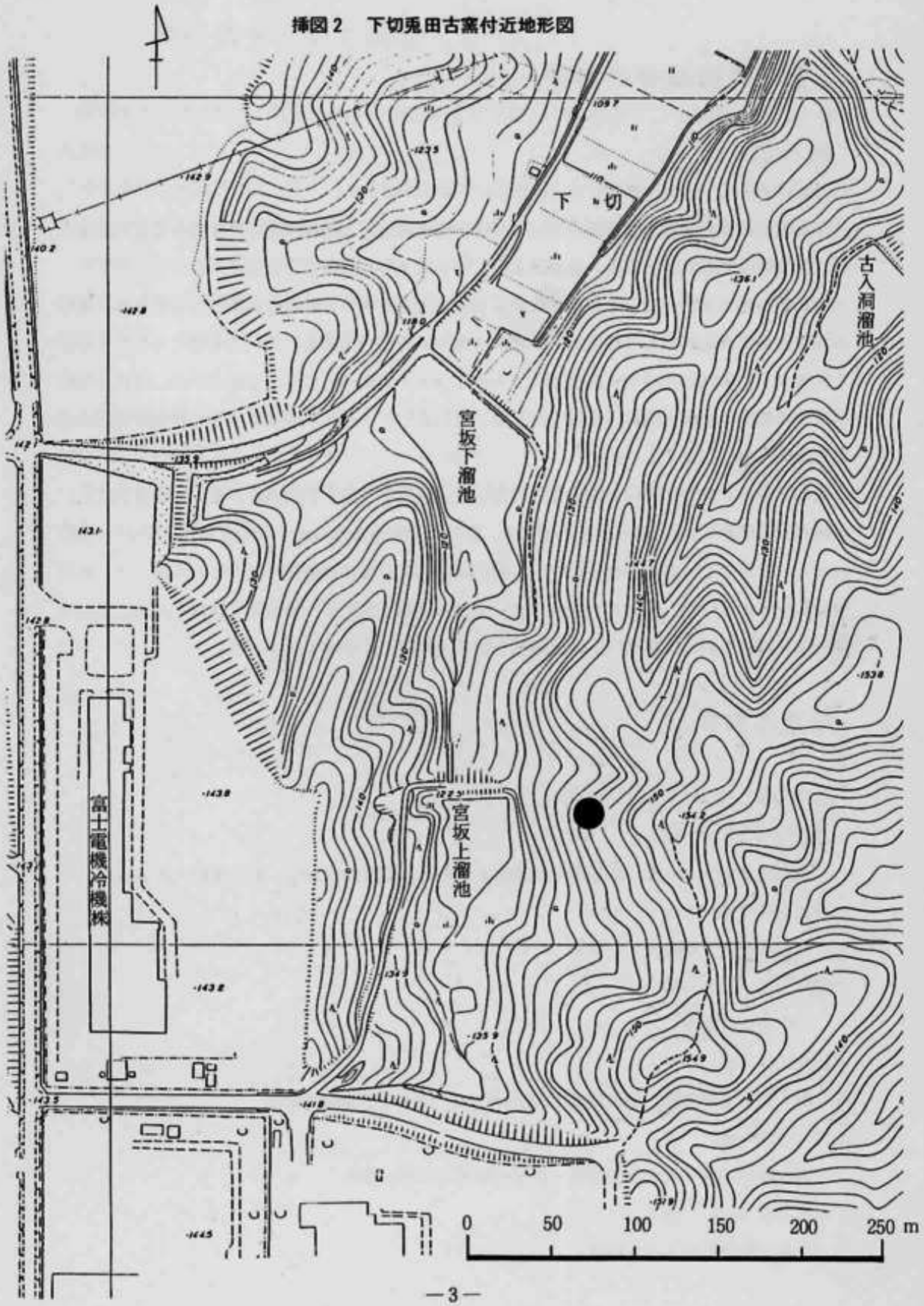
多治見市から続くこの丘陵には，平安期から鎌倉・室町期に至る，白瓷・山茶椀窯が100基以上も分布しているが，本窯は，この分布域の北限近くにあたる。昭和47年発掘調査の谷迫間古窯，及び昭和52年発掘調査の谷迫間２号窯は，北西約1000mの位置に所在した。

挿図１　岐阜県可児市周辺の白瓷窯と山茶椀窯分布図



参考文献「美濃の古陶」1976,「北丘」多治見市教育委員会　1981

挿図2　下切兎田古窯付近地形図



Ⅲ　発掘調査の経過

経　過

下切兎田古窯の発掘調査現場作業は，正月休みを挟んで，昭和59年12月20日から昭和60年1月23日までの間20日間実施し，整理作業は，引き続き3月31日まで行なった。

発掘調査は，まず発掘区の立木の伐採，現況測量から始めた。窯体と思われる部分は，尾根にほぼ垂直に溝状に凹んでいることが観察され，天井部分は崩落していると考えられたことから，まず，窯体部分の表土・流土剥ぎから始め，天井が崩落した木口の焼土から，窯体の上面プランを検出した後，窯体の主軸を決定し，M列とし，一辺2mのグリッドを調査区全域に設定した。

このグリッド設定に伴い，灰原部分に残す土層観察用の土手を縦2本，横1本位置決定し，灰原調査も開始した。灰原出土の遺物は，整理の都合上3本の土手で6区に区切られた発掘区をA～F区とし，遺物を取り上げた。窯の前庭部は，窯体の掘抜き排土による盛土で，平坦面が作出されていた。そして，窯体プランの付帯遺構及び灰原の断面図を作成した後，土手を除去し，窯体と前庭部マウンド部分の断ち割りを行なって調査を終了した。

調査日誌抄

昭和59年

12月13日（木）　晴

調査区全域立木伐採　灰原表採の焼台からみて，窯体の床は40°程の傾斜とみられる。

12月14日（金）　雨

現場事務所・仮設トイレ設置

12月17日（月）　晴

発掘用資材搬入

12月20日（木）　晴

鍬入れ　調査説明　現況測量（50cmコンタ　$S=\frac{1}{50}$）落葉等除去

12月21日（金）　曇

窯体部分の表・流土除去開始　煙道先端部分の焼土検出

12月22日（土）　曇

窯体上半分位のプラン検出

12月24日（月）　雪

窯体プラン全面検出　窯体の中軸ライン決定（M列とする）　2mグリッドで杭打ち　分炎柱部分の天井部は，一部残存しているようだ　焚口右袖部には，完形に近い椀多数が取り残されているようだ。

12月25日（火）　雪

土層観察用のセクションを残し，灰原部分の調査部分の調査も始める

12月27日（木）　雪

窯体上面プラン清掃　写真　灰原E区より片口椀出土

昭和60年

1月7日（月）　晴

窯体埋土掘出し開始　焚口右袖部に置き去られた遺物面清掃　灰原F区より半焼の高杯，数個出土　窯前庭部は，掘抜き排土による盛土がなされている

1月8日（火）　晴

窯内燃焼室部分より，椀数個体出土

1月9日（水）　晴

D・E・F区の完掘　灰原縦断面写真　窯内焼成室分炎柱付近から落下した焼台多数出土

1月10日（木）　曇

灰原A・B・C区調査開始　灰原D・E・F区の縦横断面実測（S＝1/20）

1月11日（金）　晴

焚口右袖部の残留遺物出土状態　写真　実測（S＝1/10）　窯体床面まで全掘　分炎柱　左部分の天井は残存している

1月12日（土）　晴

灰原完掘　清掃

1月14日（月）　晴

灰原A・B・C区の縦断面実測　写真　セクション除去　焚口部の横断面実測（S＝1/20）

1月16日（水）　曇

前庭部マウンドの断ち割り開始　前庭部にピット検出

1月17日（木）　晴

窯体プラン実測（S＝1/20）　前庭部の横断面断ち割り

1月18日（金）

窯体断ち割り　前庭部プラン実測（S＝1/20）マウンド右端に溝状遺構検出　焚口部に排水溝検出　分炎柱部分の横断面実測

1月19日（土）　晴

マウンド断面実測　写真

1月21日（月）　晴

窯体断面実測（S＝1/20）床の貼り換えなし　排水溝実測

1月23日（水）　晴

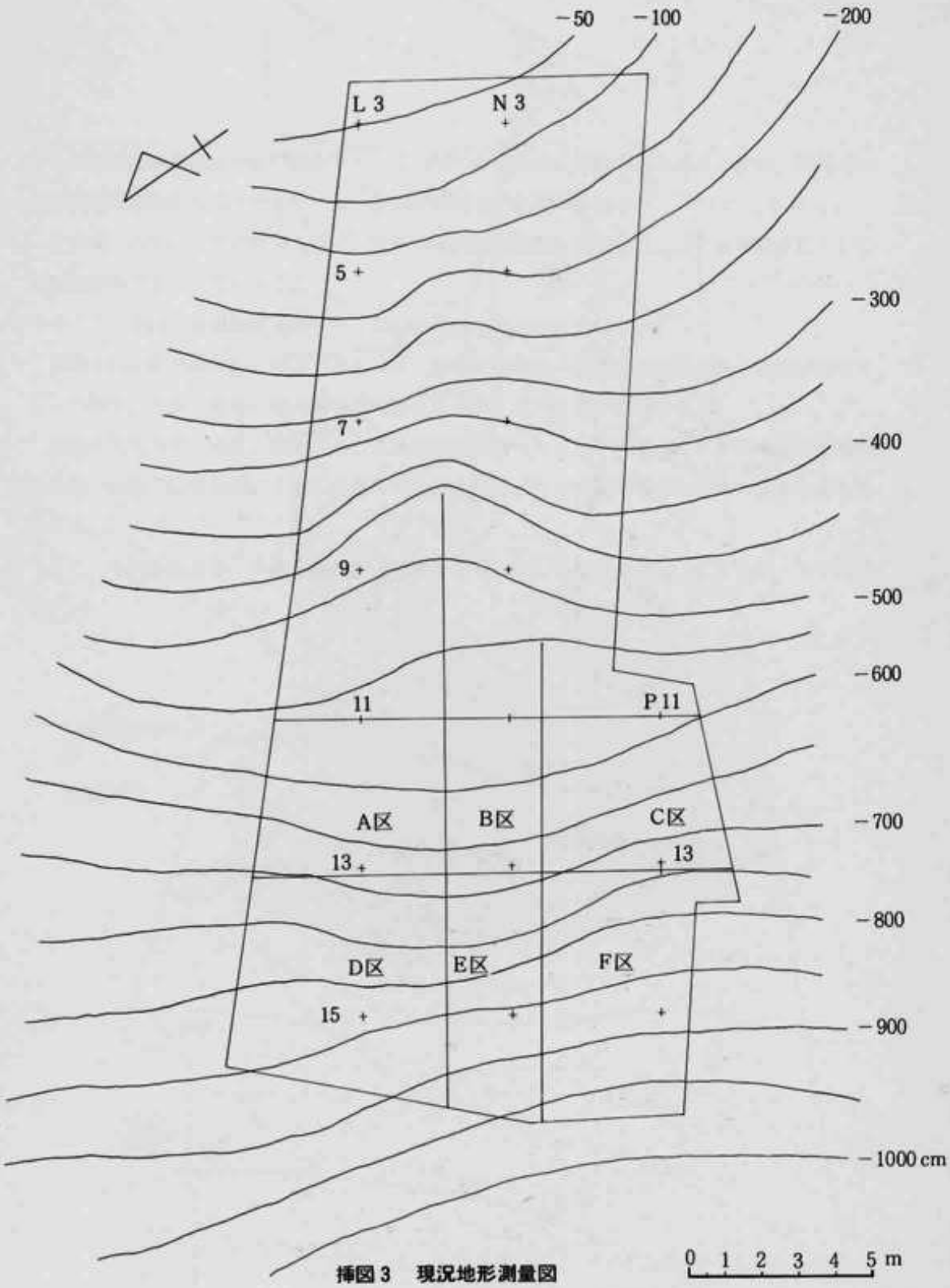
地形測量　図面チェック　富山大学広岡教授、熱残留磁気測定を行なう　現場作業終了

1月24日（木）　晴

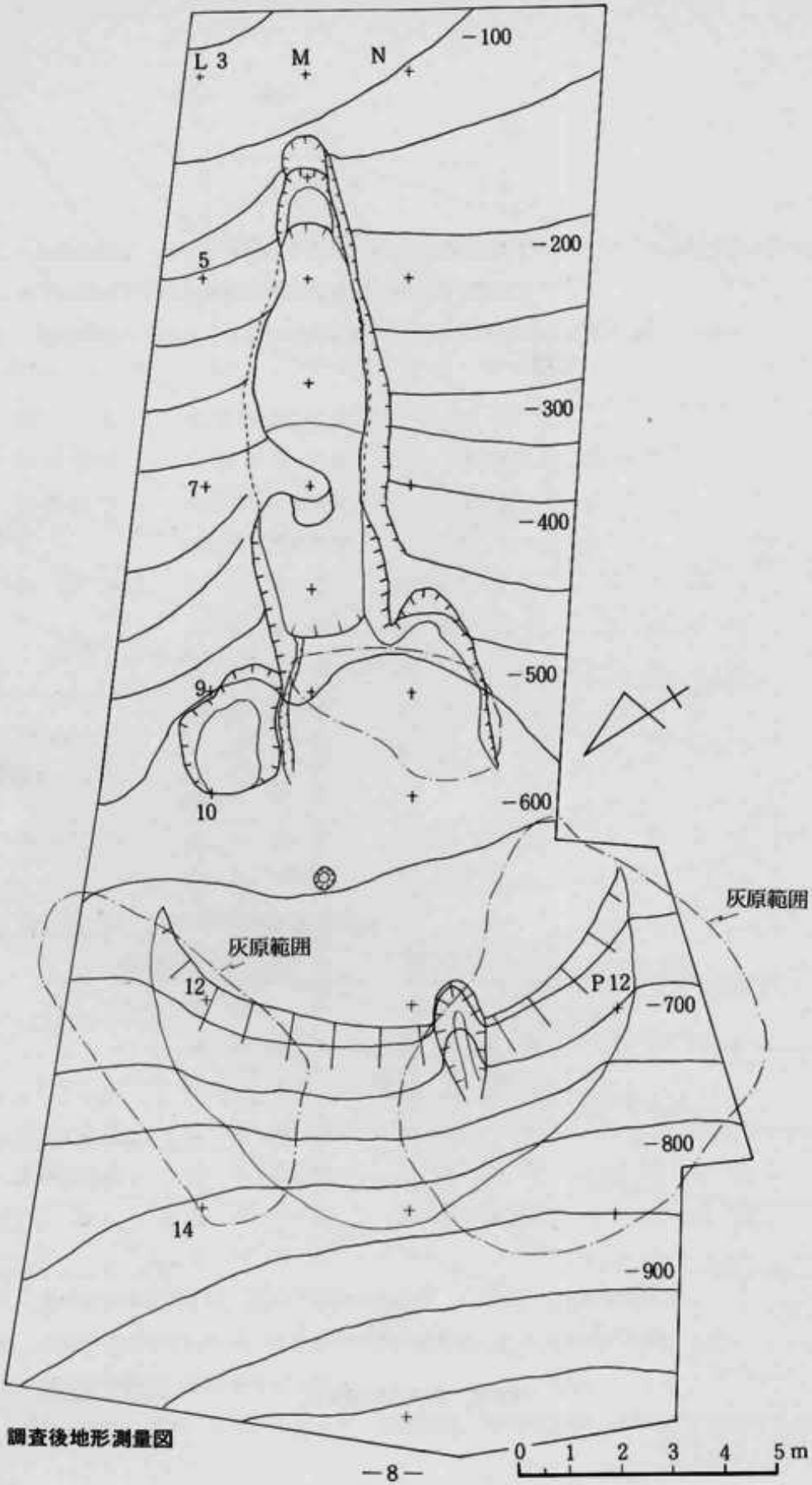
発掘用資材搬出

右袖部の調査

熱残留地磁気測定


−50
−100
−200
L 3
N 3
5
7
9
11
P 11
A区
B区
C区
13
13
D区
E区
F区
15
−300
−400
−500
−600
−700
−800
−900
−1000 cm
0 1 2 3 4 5 m

挿図 3　現況地形測量図



挿図4　調査後地形測量図

Ⅳ　遺　構

本窯は，北東に延びる尾根の頂上近くの斜面標高140m付近に構築されており，窯体天井壁はほとんど崩落していたものの，灰原も含めて保存状態は良好であった。

窯体の規模は，主軸長9.95m，最大幅2.46m，床面最大傾斜角43度で，主軸の方位は，S 56°Eであり，灰原は，窯の下方約57㎡に広がっていた。

以下窯体構造及び灰原を煙道部，ダンパー，焼成室，分炎柱，燃焼室，焚口部，前庭部，灰原の順に記述する。

煙道部

煙道部は，主軸長1.70mを測る。床面のプランは，幅0.8～0.9mでズン胴にのびる。床面の傾斜は，先端から65cmまでは40°であるが，そこから50°となって急激に落ち込み，先端から95cmの地点で再び傾斜が変わり，15°とゆるやかになり，170cmの地点まで続く。

床の断面観察から，65cmから170cmにかけては，厚さ３～４cm程の貼床が認められた。

また，傾斜が50°となる地点からは，崩落した天井部分の堆積が確認されたが，それより先端部には検出されなかった。更に，煙道中央部付近の左壁際には，半焼の小皿が２段重ねの状態で置かれていた。この小皿は，高台のない特殊なものであり，色見等に使用されたと考えられる。

ダンパー

煙道部の最下部は，床面プランの曲線が大きく変わる変曲点となっており，床面の傾斜角も大きく変化して，ダンパーとしている。この部分での床面の幅は，0.9mである。

焼成室

焼成室は，分炎柱の最奥からダンパー部分までとする。主軸長は，4.90m，最大幅2.46m，分炎柱最奥部での幅は，2.14mを測る。ダンパー部分から床面プランが，舟形に広がる焼成室は，床面傾斜角も43°と非常に急になる。この広がりは，ダンパーから3.1mの辺りで一旦止まり，床面が水平になる3.9mの辺りからしだいにせばまっていく。分炎柱の最奥から，焼成室の平坦な床が43°になる地点までの主軸長は，1.0mであるが，窯内遺物のほとんどは，この部分に折り重なって出土した。また床面上に原位置を保った焼台も傾斜の変化する辺りに３列程検出された。傾斜の急な部分の床は，礫の混じった地山面をそのまま利用し，平坦な部分には厚さ２～３cm程の貼床が確認された。また，左右両壁でも表面の保存状態の良い部分では，

粘土の貼り付けも確認された。

焼成室の横断面は，大概ね半月形を描くようであるが，厳密には床も平面的ではなく，壁際では若干レベルアップしている。

分炎柱

分炎柱は，焼成室の床が平坦になった地点から主軸上で1.0m離れた床面の中央に造られている。表面はよく焼けしまっており，ガラス化し，青白色を呈している。

基底部での計測値は，縦96cm・横80cmで，隅丸長方形プランを呈し，焼成室側での床面から天井壁までの高さは100cmである。

また，左側分炎孔部分の天井部は，保存状態が良くアーチが残っており，高さ78cmを測る。

分炎孔部分床面での幅は，左側が74cm・右側は75cmであり，左右対称となっている。

更に，分炎柱断面の観察からすれば，分炎柱及び天井部は，土岐砂礫層の地山そのものであり，トンネル状に掘って掘り残したものと考えられる。そして内側には，厚いところで10cm程の粘土を貼りつけている。また，焼成室側の縦断面ではスサ入粘土で補修された３回の焼成面が検出された。

燃焼室

燃焼室は，一応床面の傾斜が角度が変わる焚口から分炎柱の最奥までとする。この部分の主軸長は3.15m，焚口部との境，最も狭まくなる所で幅1.6mを測る。燃焼室の床面は，分炎柱に向かってゆるやかに傾斜しているが，分炎柱付近ではゆるやかに上り，分炎柱へ続く。床は，ほとんど地山面を利用しており，厚さ２～３cm程の黒色灰層の堆積がみられた。

また，両壁の立ち上がりは，床面から鈍角に出発し，天井へ向かう。更に，崩落した天井部の堆積は，焚口から20cm程の所まで認められた。

焚口部

焚口部は，主軸長20cmを測り，水平な床面がゆるやかに傾斜しはじめる燃焼室までの部分とする。この左隅には，ここより始まる排水溝が，ゆるやかにカーブしながら前庭部へと続いている。

焚口部での排水溝の幅は12cmを測る。

前庭部

前庭部は，窯体の主軸の延長で，焚口から7.1m，11列での横幅は8.4mを測るかなり広い面積である。

前庭部の床面は，地山の削平してほぼ水平に整地した部分とこの残土及び窯体の掘抜排土による盛土で整地された部分から成り，その面積は，ほぼ半々である。盛土部分の最も厚いところは，厚さ60cmを測る。

焚口部に端を発した排水溝は，幅を少し広げながら，前庭部の中央やや手前で消滅している。

焚口の右袖部には，地山を削平して作られた付帯施設があり，焚口部からここにかけては，同範囲に広がる黒色灰層上に，完形に近い椀や皿の類が多量に出土した。

おそらくこの施設は，焼成品が，一旦，取り出された製品置場であろう。そしてこの出土遺物は，この窯の最終焼成品のうちの不良品が，そのまま置き去られたものなのであろう。

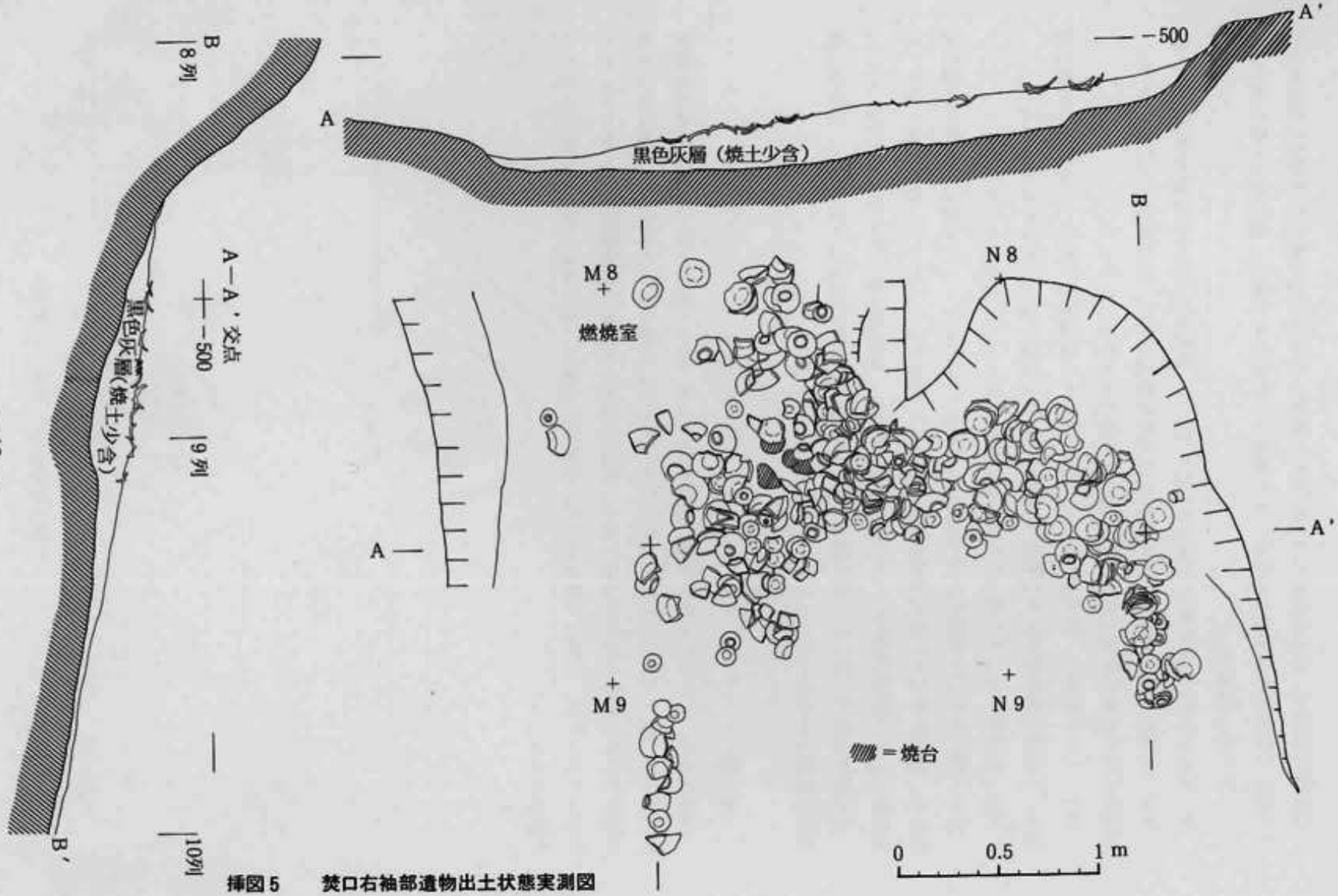
また，左袖部にも，浅く削られた付帯施設が検出されたが，遺物の出土はなかった。

更に，焚口から4.5m程離れた真正面には，35cm×40cmのピットが1個と前庭部の右寄りの肩には，灰原に埋まった溝状遺構が斜面へ向かって検出された。そして，右隅の盛土直下（旧地表面）には，黒色灰炭層がレンズ状に堆積しており，窯築造以前の焚火等の跡と推察される。

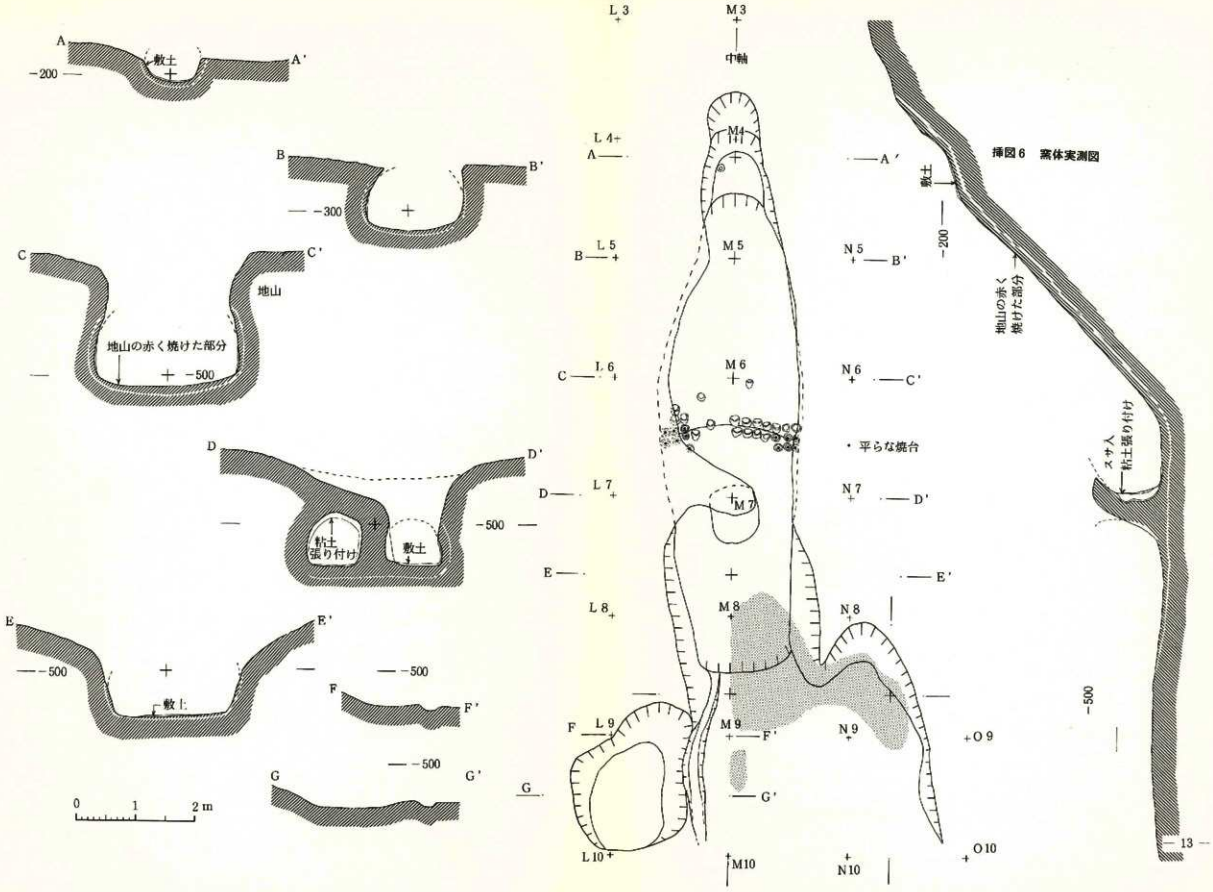
前庭部の床面は，概して，強く踏みしめられており，非常に固くなっているが，建物等の施設は，確認されなかった。

灰 原

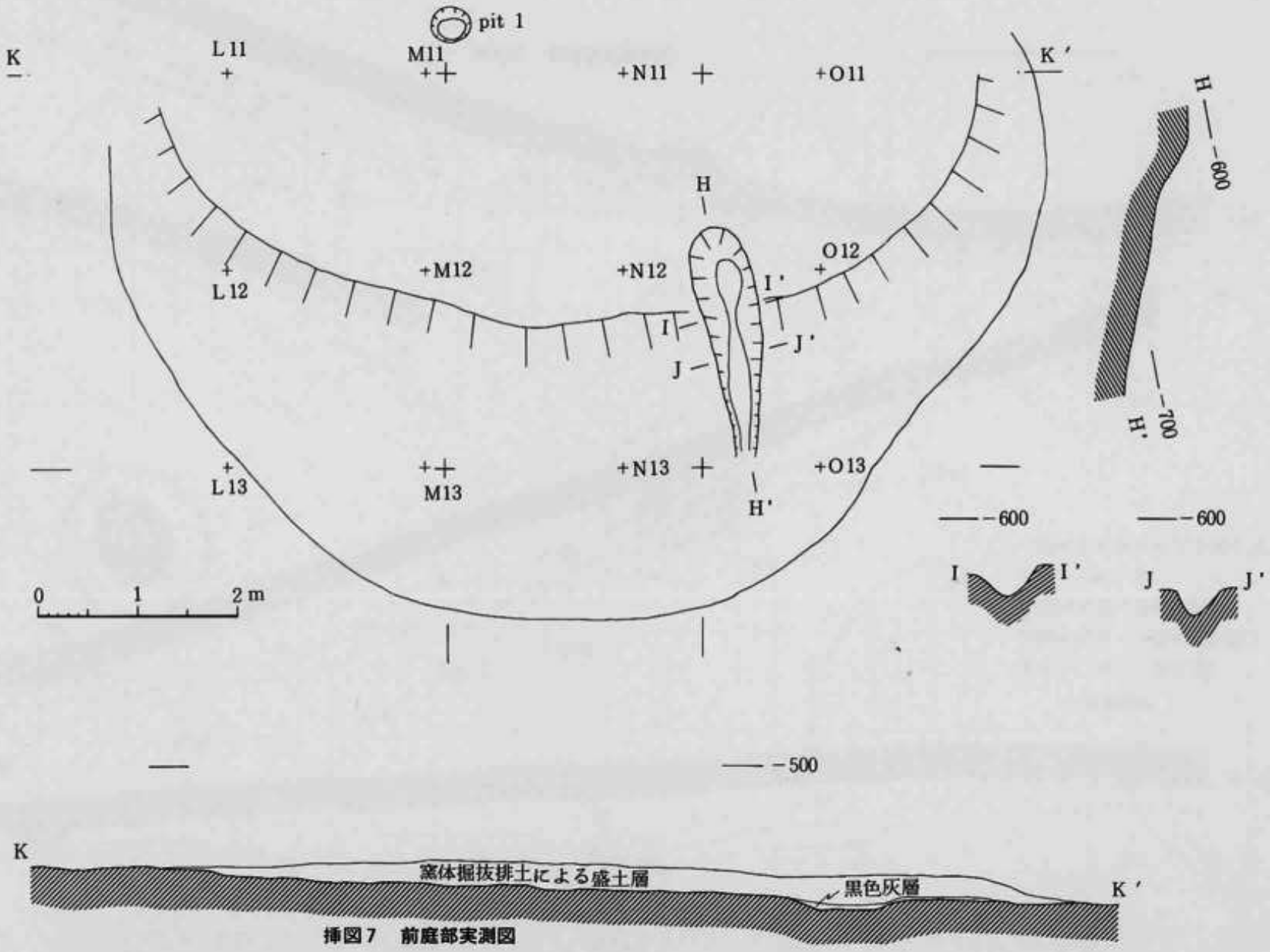
前庭部から，この下方にかけては，窯焚きの灰・炭・焼土・焼台や椀・皿類の失敗品を廃棄した灰原が，マウンドの左右に分かれて広がっている。灰原のおよその面積は，窯に向って左の灰原が21㎡，右の灰原が36㎡程である。灰原の遺物を多量に含む黒色灰層は，厚いところで約60cmを測ったが，分層はできなかった。遺物の出土量は，窯に向かって右側の灰原のC区・F区が最も多かった。



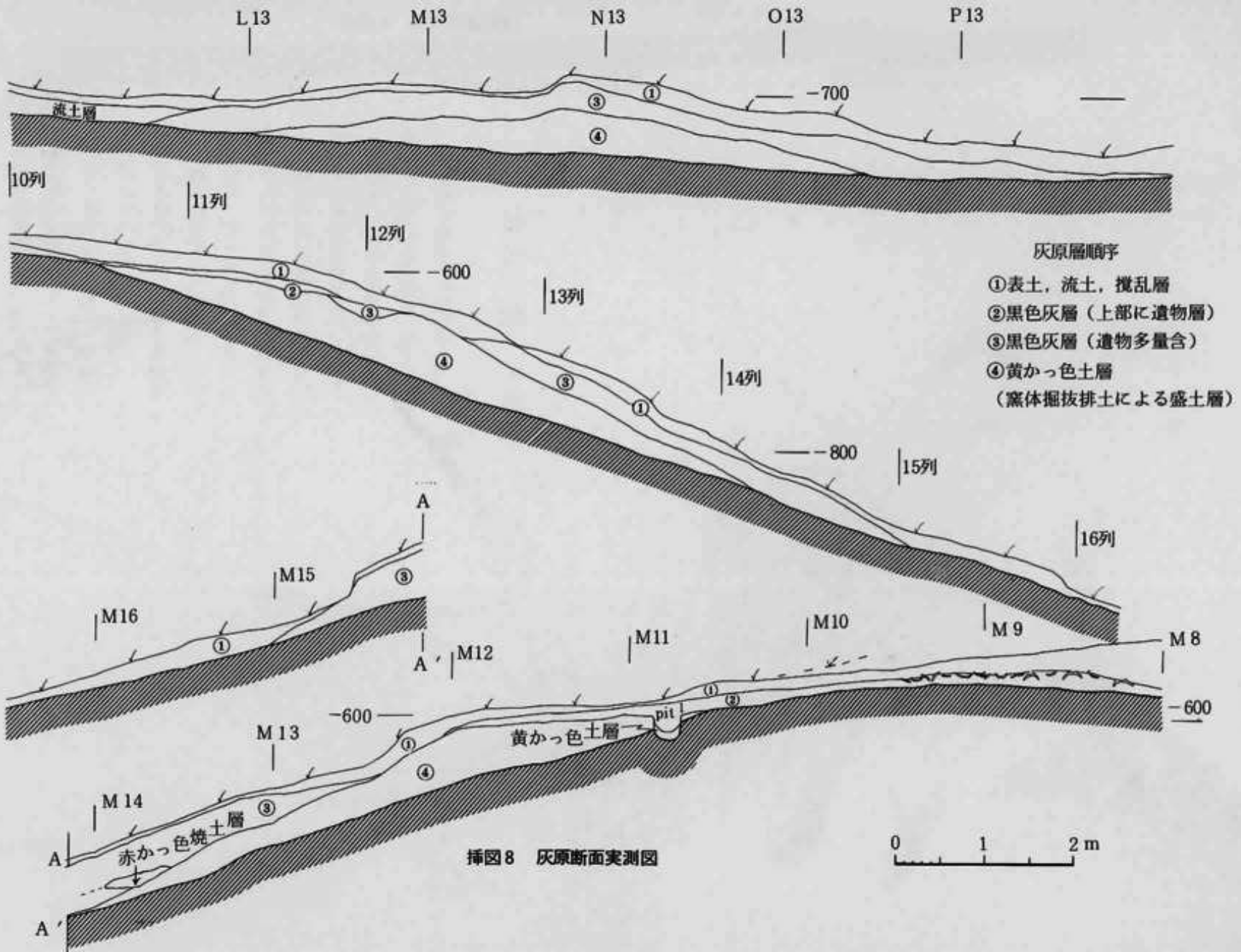
挿図5　焚口右袖部遺物出土状態実測図


A
A'
-200
敷土
B
B'
-300
C
C'
地山
地山の赤く焼けた部分
-500
D
D'
粘土張り付け
敷土
-500
E
E'
-500
敷土
F
F'
-500
G
G'
-500
0 1 2 m
L 3
M 3
中軸
L 4
M 4
L 5
M 5
N 5
L 6
M 6
N 6
平らな焼台
L 7
M 7
N 7
L 8
M 8
N 8
L 9
M 9
N 9
O 9
L 10
M10
N10
O 10
敷土
地山の赤く焼けた部分
スサ入粘土張り付け
-200
-500
13

挿図6 窯体実測図


pit 1
K
K′
L11
M11
+N11
+O11
H
H′
L12
+M12
+N12
O12
I
I′
J
J′
L13
M13
+N13
+O13
0
1
2 m
600
700
500
窯体掘抜排土による盛土層
黒色灰層

挿図7　前庭部実測図


L13
M13
N13
O13
P13
流土層
−700
10列
11列
12列
−600
13列
14列
15列
−800
16列
灰原層順序
①表土，流土，攪乱層
②黒色灰層（上部に遺物層）
③黒色灰層（遺物多量含）
④黄かっ色土層
（窯体掘抜排土による盛土層）
A
M15
M16
A′
M12
M11
M10
M 9
M 8
−600
M 13
pit
黄かっ色土層
M 14
赤かっ色焼土層
A
A′
0
1
2 m

挿図8　灰原断面実測図

V　遺　物

出土遺物は，窯内及び灰原から製品では，椀と小皿を主体に輪花椀，片口鉢，鉢，高杯が数点ずつ，窯道具では，焼台各種と棒状粘土塊が1点出土している。

以下各遺物ごとに記述する。

椀

椀は，最終焼成品である窯内及び右袖部からと灰原から表1の如く出土している。胎土は緻密で灰白色を呈するが，粗い砂粒を含むものも目立つ。

窯内及び右袖部出土のもの（挿図14～16・図版23）は，口径15.3～16.4cm・器高5.5～6.4cmの間にそのほとんどが分布する（グラフ1）。

これに比べ灰原出土のもの（挿図11～13・図版22）は，口径15.3～17.5cm・器高5.5～6.8cmの間にそのほとんどが分布し（グラフ2），大小の散らばりが大きい。

椀は厚手のつくりで，外面胴部中央から高台にかけては，ヘラ削り調整が目立つ。そして自然釉は，内面は見込み部以外に，外面は，口縁から胴部にかけて見受けられる。また，高台からゆるやかに内彎しながら上る曲線は，口縁部近くでゆるやかに少し外反している。

この傾向は，出土した椀のほとんど総てについて言え，器型の分類については，グラフ上の分布で，灰原から出土した椀の大小を言うのみである。

高台は，付け高台で，高台径7.0～8.3cmに集中し（グラフ5・6）両側は，ヘラ削りやナデ調整が施され，総てに「モミガラ」圧痕が残る。その高台の調整，整形の仕方により，次の4タイプに分類可能である（挿図9）

A類

高台の断面は三角形に近く高台の内側と外側は，ロクロによるナデ調整やヘラ削り調整が行き届き，接合部分がなめらかになっているもの。

B類

高台の断面は三角形に近いが，高台の内側のみナデ調整が行き届きなめらかになっているが，外側は，垂直に立ち上がり，高台と椀底部の接点は角ばっているもの。

C類

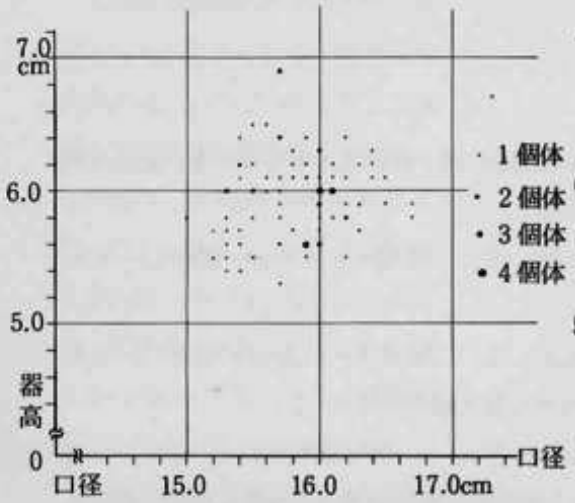
高台の断面は台形に近く，高台の内側と外側は，ナデ調整やヘラ削り調整により，接合部分はなめらかになっているが，外側は，ほぼ垂直に立ち上がっており，内側は内彎しながら接合しているもの。

D類

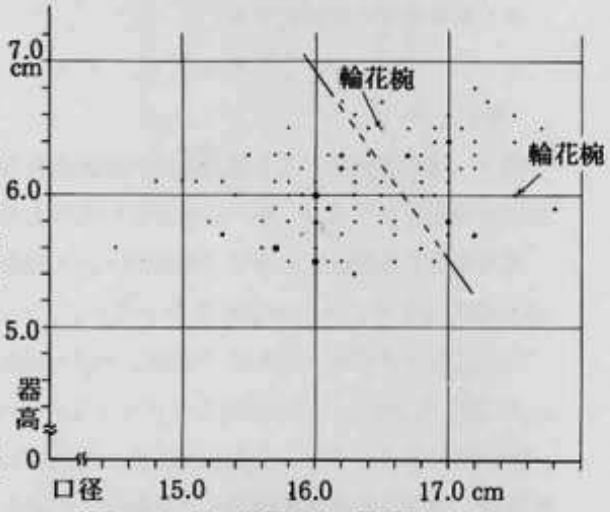
高台の断面は台形に近いが，高台の内側のみナデ調整が行き届き，内彎しながら接合するが，

外側は垂直に立ち上がり，B類同様高台と椀底部の接点は角ばっているもの。

また，この他に1個体であるが，薄手で，高台には「モミガラ」圧痕がなく，高台末端は丸みを帯び，逆「ハ」字状に開く椀が灰原F区より出土している（挿図21—4）。



グラフ1　椀の法量分布（窯内と右袖部出土品）



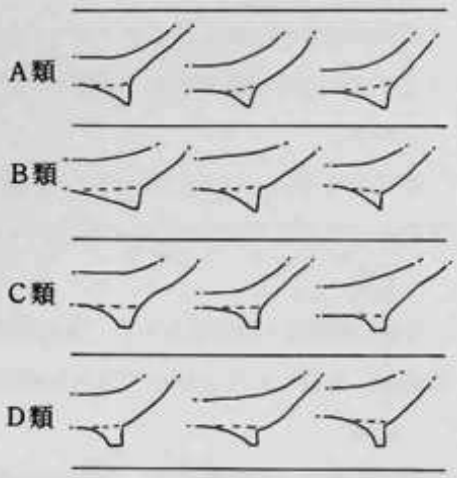
グラフ2　椀の法量分布（灰原出土品）

口縁部残存率40%以上のものを抽出

小 皿

小皿は，最終焼成品である窯内及び右袖部から138個体，及び灰原から表1の如く出土している。胎土は，椀同様，緻密で，灰白色を呈し，特異なものはないが，粗い砂粒を含んでいるものもある。高台径は4.4～5.2cmの間に集中分布する（グラフ7・8）。

窯内及び右袖部出土のもの（挿図18．19・図版25）は，口径8.9～9.6cm・器高3.0～3.6cmの間にそのほとんどが分布する（グラフ3）。この最終焼成品は，高台付近のヘラ削りにより，一様に外面胴部中央に稜を有するばかりで，稜から口縁にかけてはゆるやかに外反し，器型的には分類不可能であるが（I類）「モミガラ」高台の形状によって2つに分類できる。　1つは，付け高台がほぼ垂直に立ち上がり，断面三角形から台形を呈するもので，高台の内側は，中央付近までナデ調整により，回転糸切り痕が消されているものである。



挿図9　椀の高台分類

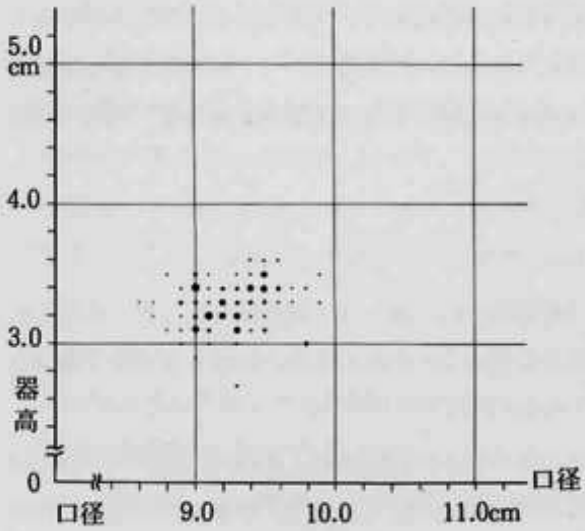
他の一つは，付け高台の外面が，内面同様しっかりヒヘラ削り或いはナデ調整され，高台の立ち上がりが，逆「ハ」字状（断面三角形）に開くものであるが，これは圧倒的に少ない。

自然釉は，内面は見込み以外に，外面は口縁部から胴部にかけて見受けられる。

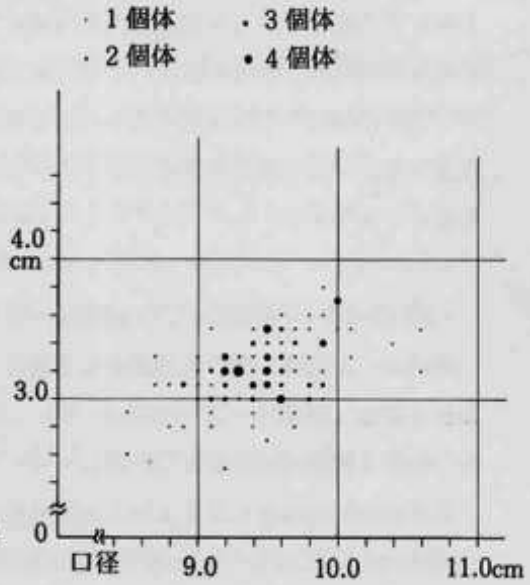
灰原出土のものは，（挿図17．18・図版24）口径9.0～9.9cm，器高2.8～3.6cmの間に分布するものがほとんどで（グラフ４）若干分布範囲は広い。

器型的には，底部付近のヘリ削りにより外面に稜を有し，そこから口縁部に向ってゆるやかに外反するもの（Ⅰ類），口縁部付近は若干外反するものの，稜といえる線はないもの（Ⅱ類）更に，外面に稜はなく，外反せず，口縁に向かって逆「ハ」字状に開くもの（Ⅲ類）の３種類に類別できる。

窯内及び右袖部出土の最終焼成品はほとんどがⅠ類であることから，この窯の数回に亘る焼成では，小皿は，しだいに「外面胴部に稜を有する様に変化した。」ことが推定される。



グラフ３　小皿の法量分布
（窯内と右袖部出土品）
口縁部残存率50%以上のものを抽出



グラフ４　小皿の法量分布
（灰原出土品）
口縁部残存率70%以上のものを抽出

輪花椀　（挿図20―３．４・図版26―３．４・図版27―５）

灰原のＣ区とＦ区から各１個体ずつ出土しているのみである。

Ｃ区出土のもの（3)は，口径16.7cm，器高6.5cm，高台径7.7cmを測り，口縁部を外側からヘラ先で押えて輪花状に仕上げている。ヘラ先で押えた部分は，３ケ所現存するが，復原すれば，５ケ所と推定される。また，内面底部には３回，指先で軽くなでた「スリ消し痕」がみられる。

外面底部は，高台に近い部分のみ，高台貼付け時のへり削り調整によって，回転糸切痕が消されている。口径は，普通の椀に比べ変わりないが，器高は，高い部類に属する。高台は，断面台形に近く椀A類に属する。

F区出土のもの（4）は，口径部残存率20%程であり，口径部外側をヘラ先で押えた痕は，2ケ所確認されるのみであるが，復原すれば，やはり5ケ所と推定できる。計測値は，口径17.5cm・器高6.0cm・高台径7.5cmを測り，普通の椀に比べ，器高は変わりないが，口径は大きい。高台内のヘラ削り調整は上記のものと同じではあるが，高台断面は，台形を呈し，椀D類に属する。

いずれも焼けがあまく，施釉の有無は，はっきりしない。また，腰から高台付近にかけては，ヘラ削りが施せれており，高台には「モミガラ」圧痕がみられる。

施文方法については，白瓷窯の谷迫間古窯及び山茶椀窯の谷迫間2号窯出土の輪花椀で確認されたように，2点とも輪花施文の内面に2筋の指圧痕が認められる。これは，おそらく両窯の出土遺物同様，親指の腹にヘラ状の施文具を付け外面にあて，人差し指と中指は内面にあてて，口縁に向けて引き上げるようにして施文したものなのであろう。（「谷迫間古窯址発掘調査報告書」可児町教育委員会１９７４，「可児町谷迫間2号古窯発掘調査報告書」可児町教育委員会１９７８）

片口鉢　（挿図20．21・図版26―5～7）

窯内から1個体，焚口右袖部から2個体（挿図20―10．21―3・図版26―5．6）灰原E区から3個体（挿図21―2・図版26―7），及びC区から片口鉢の高台とおぼしきもの1個体分の，合計7個体分が出土している。

本窯の最終焼成品と考えられる右袖部出土のものは，口径21.4cm，器高10.2cm，高台径10.9cmを測り，椀を大きくした様な形状である。高台の高さは，2.0cmで，ゆるやかな「ハ」字状に開き，末端は丸く終わる。高台の付け方もナデ調整が行き届き，ていねいな作りである。

窯内出土のものは，片口部のみの破片であるが，椀程度の大きさのようである。

E区出土の3個体は，同一器形であり，口径18.5cm，器高10.0cm，高台径10.0～11.0cmを測る。そのうち2個体は，重ね焼きの状態に接合した。

形状は，口縁部から1.5cm程ややふくらんで垂直ぎみに下りたあと凹んで段がつき大きくふくらんで高台へ向かう。胴部にはヘラ削り調整が認められる。高台は，右袖部出土のものよりも「ハ」字状の広がりが強く，末端は丸く終わる。

C区出土のものは，高台部分のみの破片であるが，このE区のものに近いものである。

自然釉は，内面底部を除いた内側を中心に見受けられる。また，高台には「モミガラ」圧痕はない。

片口部の作りは，いずれも口縁部外側の２ケ所を親指の腹と中指の背で押さえ，その間を内側から人差し指の腹で押し出して，突出させたものと推定され，筋状の指圧痕も認められる。

鉢（挿図21―６・図版26―８）

灰原Ｃ区より１個体分が出土しているのみである。

口縁部残存率25％より復原すれば口径は38cm程になり底部の高台径は20％より推定すれば15cm程である。また，推定の器高は，15.5cm程である。ヘラ削り部分は，胴部各所に認められる。

高台は，付け高台で高さ2.3cmを測り，外面へ彎曲して「八」字状に開いており，「モミガラ」圧痕はない。

自然釉は，内外面に見受けられる。胎土は，他の器形のもの同様緻密で灰白色を呈する。

高 杯（挿図20―５～９・図版27―１．２）

灰原のＦ区より，５個体出土している。これらは，総て乳白色を呈した非常に焼け具合の悪いものばかりであり，この意味するところにも興味がある。計測可能なものから得た各部分の値は，脚部の高さ3.0～3.5cm・杯部の直径16.8cm・脚底部の直径9.1～9.2cmを測る。

杯部は，深さ2.5cm程の浅いもので，椀胴部の傾斜をゆるやかにしたように広がっている。

脚部は，外内両面ともロクロナデにより杯部と接合され，「八」字状に裾へ向かって広がっている。そして，末端は，丸みを帯びて終わっている。「モミガラ」圧痕は認められない。

焼 台

窯内焼成室の下部より最終焼成時に使用されたと考えられるものが総数218個体，灰原からは総数829個体出土している（表１）。

窯内の焼台は，焼成室の床面が斜面の部分に使用されたと考えられるもの（長径13～16cm・短径12～13cmのものが多い（挿図19―22．20―２・図版27―９）と，焼成室下部の平坦部で使用されたと考えられるもの（直径13cm内外のもの　挿図19―21・図版27―８）の２種類に分類される。斜面部用のものは，駒爪形であるが，平坦部用のものは，丸形で「あんパン」様のものである。駒爪形の焼台には，上面に直径7.5cm程の高台痕がみられ，よく焼きしまり，表面黒灰色から赤褐色を呈している。これに比べ「あんパン」状のものは若干高台痕の径が小さく，小皿用の可能性がある。

胎土は，粗い砂や石のつぶを含む粘土で，随所に指痕が残っている。

灰原出土のものは，３種類に大別される。これは，先の２種類と，上面の平らな部分が径16cm×20cmを測る大型のもの（挿図20―1）である。この型のものは，数点出土しているのみであるが，上面には高台痕は残らず指の圧痕のみであり，鉢などの大型のものを焼くために使用

されたものと考えられる（挿図20－1）

灰原出土の焼台の胎土は，窯内とそれと同じであるが，ほとんどが，赤褐色を呈する。

斜面用のものがほとんどであることは言うまでもない。

窯内出土の焼台の個体数と，灰原出土の焼台の個体数から，合計5回の焼成が推定される。

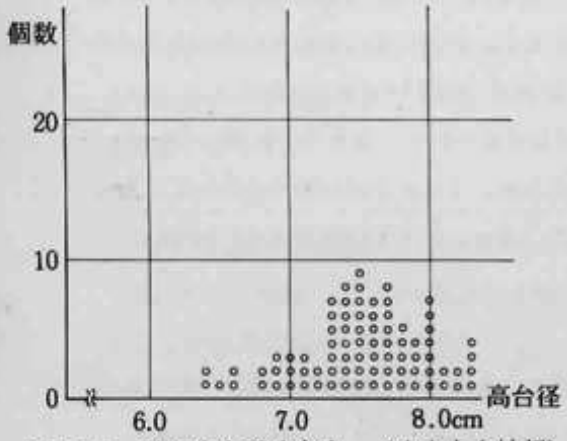
また，焼成室床面に並ぶ焼台の復原数は，およそ228個と計算された（挿図10）。

棒状粘土塊（挿図21－5・図版27－3）

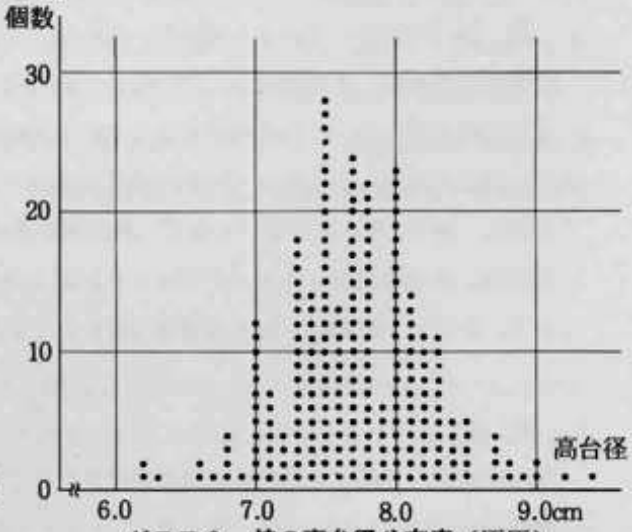
直径2.5～3cm程の太さの棒状粘土塊が窯内分炎柱付近より1点出土している。

この塊は，よく焼きしまっており，表面灰～黒灰色を呈する。両端は折れているため，長さは判らないが，現長7.7cmを測る。表面には，握りしめた指の痕が残る。

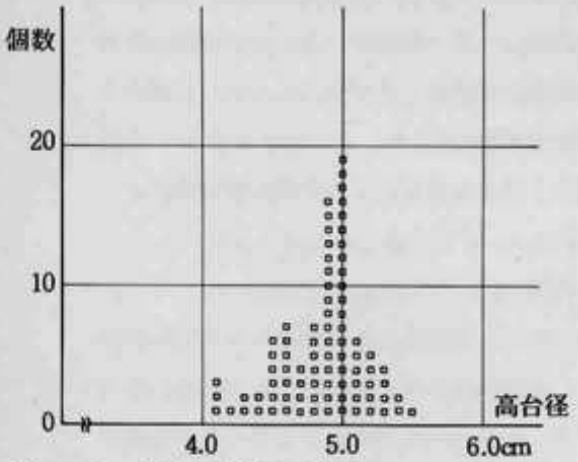
胎土は，焼台同様，粗い砂粒を含む粘土である



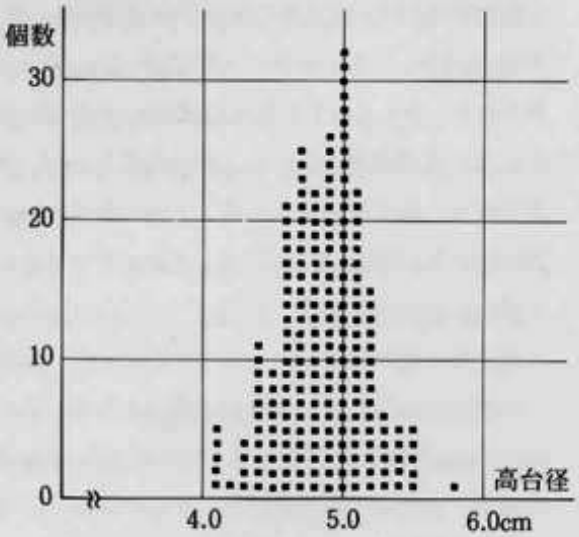
グラフ5　椀の高台径分布表　（窯内と右袖部）



グラフ6　椀の高台径分布表（灰原）



グラフ7　小皿の高台径分布表　（窯内と右袖部）



グラフ8　小皿の高台径分布表（灰原）

遺物	地区	高台完形	高台1/2以上	高台1/4以上	高台1/4以下	推定個体	遺物	地区	高台完形	高台1/2以上	高台1/4以上	高台1/4以下	推定個体
椀	窯内	59	64	26	48	127	小皿	窯内	28	3	0	0	31
	右袖	139	10	12	9	150		右袖	106	1	0	0	107
	小計	195	74	38	57	277		小計	134	4	0	0	138
	A区	231	155	140	190	431		A区	192	60	0	25	252
	B区	33	42	34	18	78		B区	32	12	0	6	44
	C区	494	367	303	272	920		C区	219	34	10	27	253
	D区	269	273	167	178	563		D区	188	16	17	33	221
	E区	226	172	132	136	427		E区	99	9	17	14	115
	F区	275	232	177	202	551		F区	151	22	25	22	177
	小計	1528	1241	953	996	2970		小計	492	153	69	127	1062
総計		1623	1315	991	1053	3247	総計		1015	157	69	127	1200

遺物	地区	個体数
焼台	窯内	218
	A区	52
	B区	5
	C区	133
	D区	207
	E区	293
	F区	139
	小計	829
総計		1047

表1　出土遺物集計表

※註

遺物の推定個体数算出は下記のとおりにおこなった。

これは高台残存率をもととして計算をおこない，小数点第一位を四捨五入するものとする。

1/2以上1/4以上1/4以下の分類は目やすとして計算上高台残存率10%を単位として，推定最大個体数，推定最小個体数を算出しその中点を持って推定個体数とする。

推定最大個体数の算出方法

1/2以上の高台残存率の物をその多数が90%近くの残存率を有すると考える場合，それらは1/4以下の物によって補われると考え，また，1/2以上の物が残る場合は1/4以上の物によって補われる。

残り1/2以下の物は25%近くの高台残存率を有すると考え分母4をもって残りをわり個体数を算出し，1/4以上の物は分母2をもってわることにより個体数をだす。

推定最小個体数の算出方法

1/2以上の高台残存率の物をその多数が60%近くの残存率を有すると考える場合，それらは1/4以上の物によって補われると考え，また1/2以上の物が残る場合は1/4以下のもの複数によって補われるものと考える，その場合1/4以下2つを持って1/4以上1個と考える，残る1/4以下の物は10%の高台残存率を有すると考え分母10をもってわり個体数とし1/4以上の物は分母4をもって個体数とする。

最大個体数

$$\text{高台完形} + \text{高台}\tfrac{1}{2}\text{以上} + \frac{(\text{高台}\tfrac{1}{4}\text{以下} - \text{高台}\tfrac{1}{2}\text{以上})}{4} + \frac{\text{高台}\tfrac{1}{4}\text{以上}}{2}$$

最少個体数

$$\text{高台完形} + \text{高台}\tfrac{1}{2}\text{以上} + \frac{(\text{高台}\tfrac{1}{4}\text{以上} - \text{高台}\tfrac{1}{2}\text{以上})}{4} + \frac{\text{高台}\tfrac{1}{4}\text{以下}}{10}$$

推定個体数

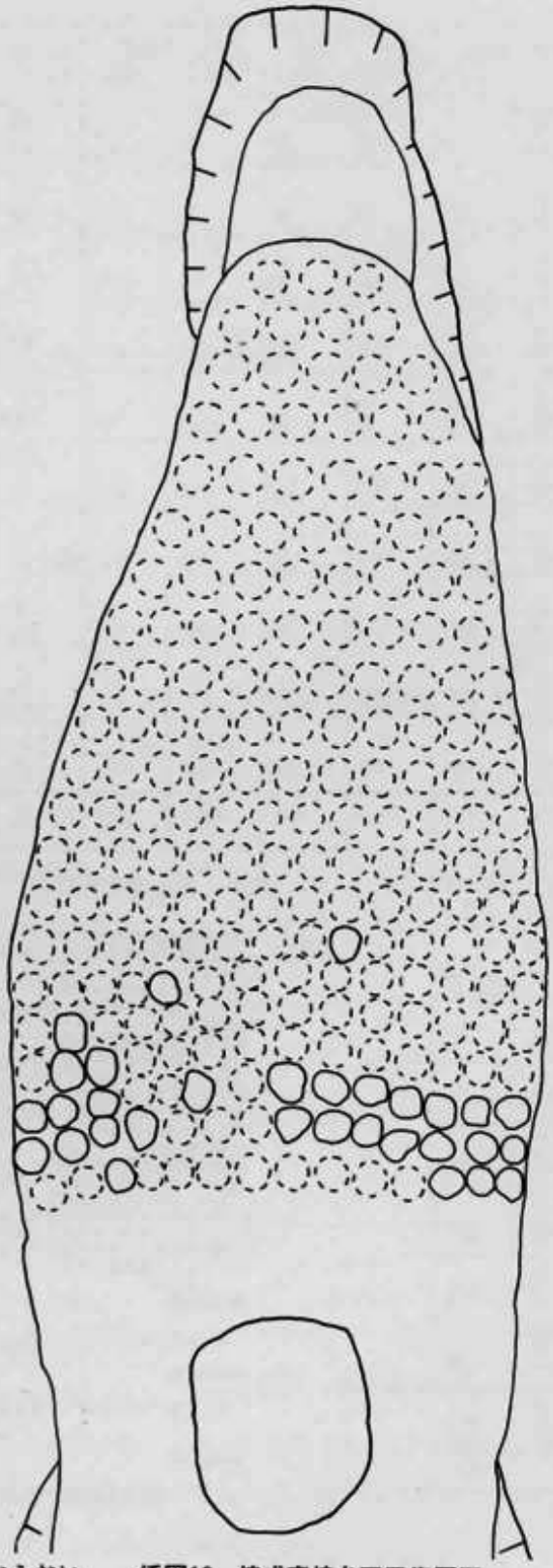
$$\frac{\text{推定最大個体数} + \text{推定最少個体数}}{2}$$

Ⅵ　焼成回数．生産量

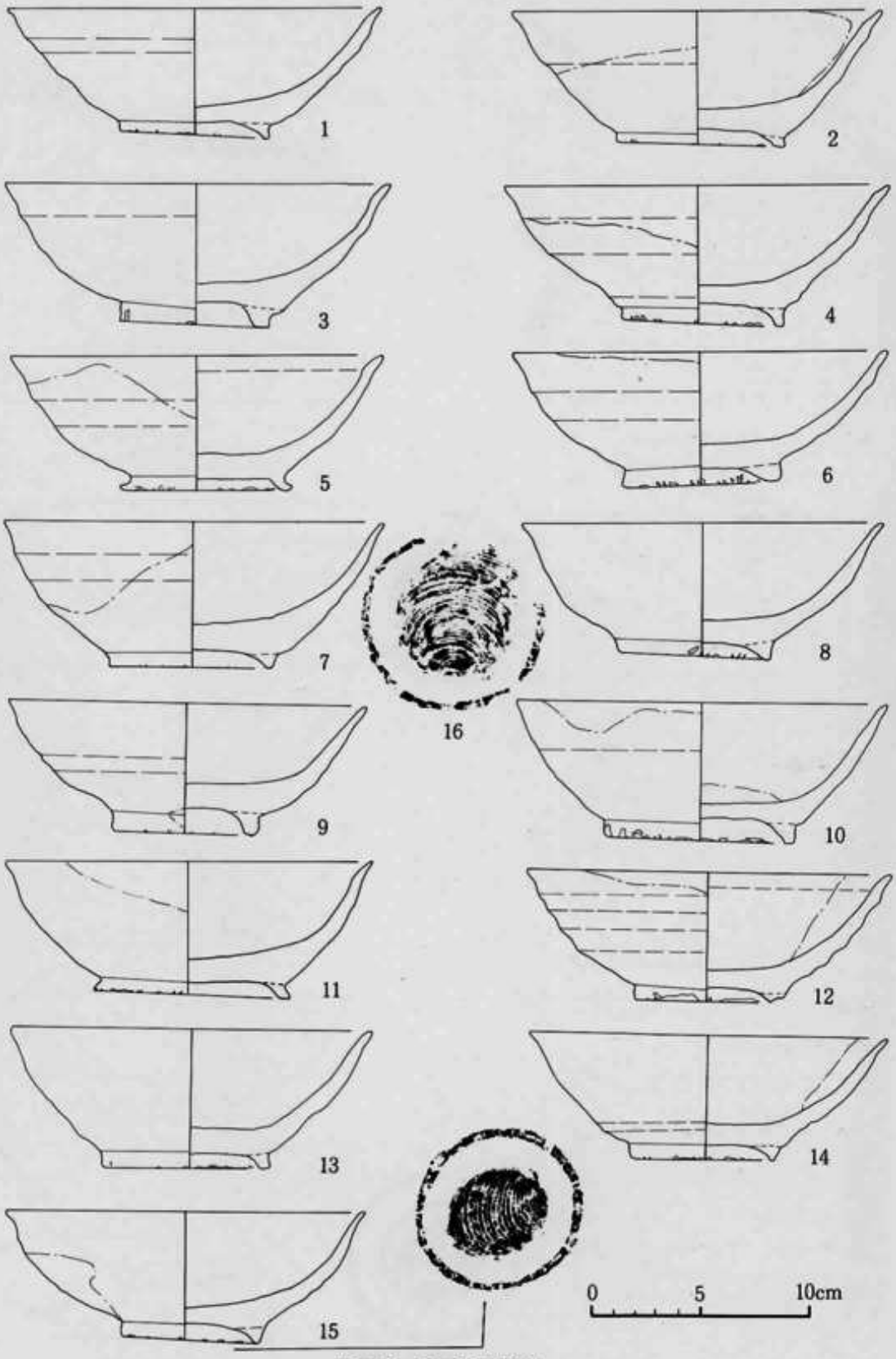
本窯最終焼成時に使用され，遺棄されたと考えられる，窯内出土の焼台は，合計218個を数えたが，図上での焼台配置復原によれば（挿図10），約228個が考えられる。この数で灰原出土の焼台829個体を割れば，約４回の焼成が考えられ，最終焼成分を入れると，合計５回の焼成が推定できる。短期操業の窯であったには違いない。

また，窯内（図版26―１）及び右袖部出土（図版26―２）の椀と小皿の融着資料から，椀は少なくとも11段，小皿は少くとも９段の重ね焼きが確認された。これを仮に，総て11段の重ね焼きとして１回焼成当りの椀と小皿の生産量を計算すると，2,508個体分が算出される。

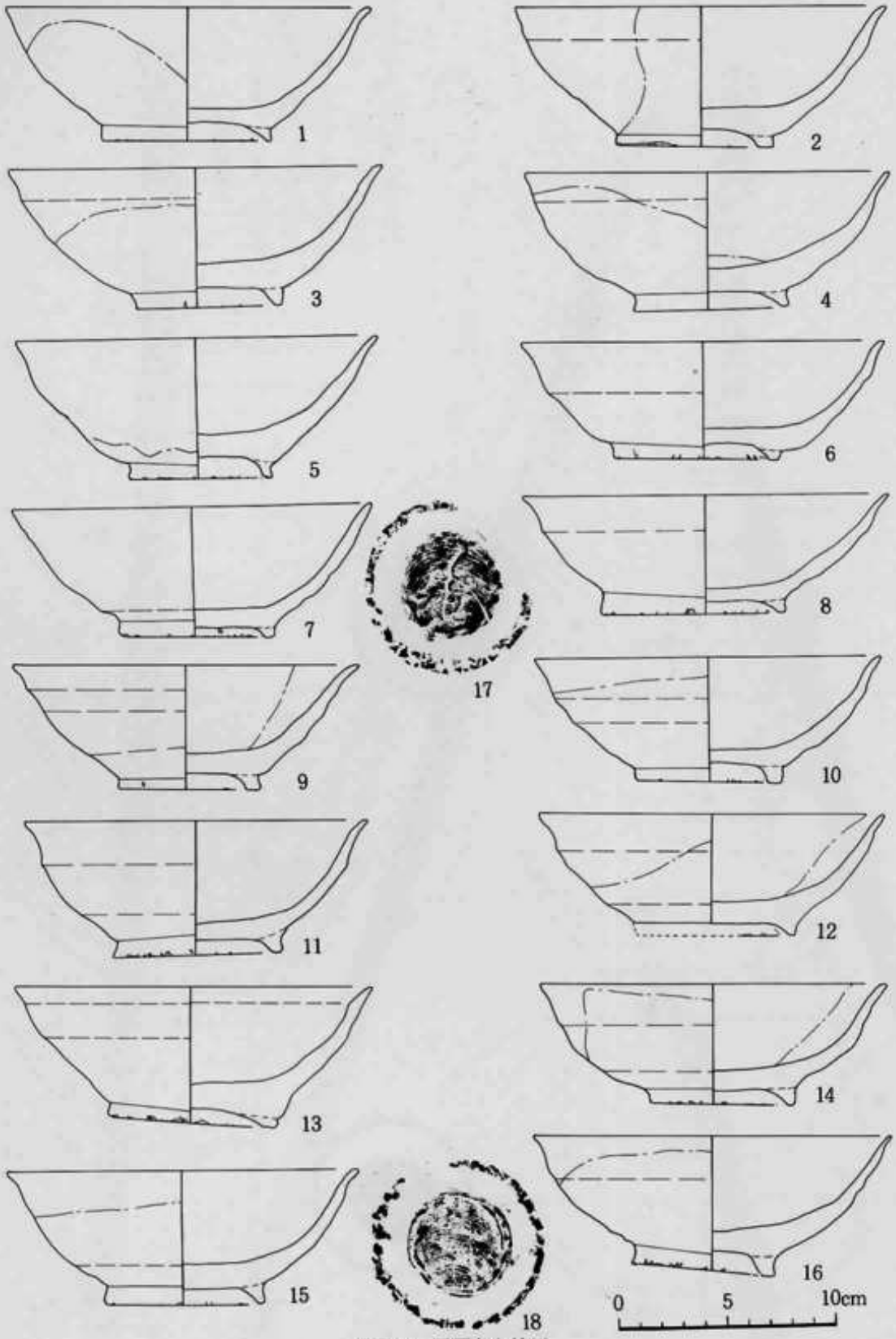
更に，窯内及び右袖部，或いは灰原に残され，遺棄された椀と小皿は総て失敗品と考えられることから，最終焼成時及びそれ以前の焼成４回における失敗品の割合は，それぞれ16.5％，40.2％と計算できる（表１参照）。ただし，これらの数値は，焼台再利用をなしとして考えた場合であり，また，最終焼成品が灰原の方へも入り込んでいる可能性も当然考慮に入れなければならない。



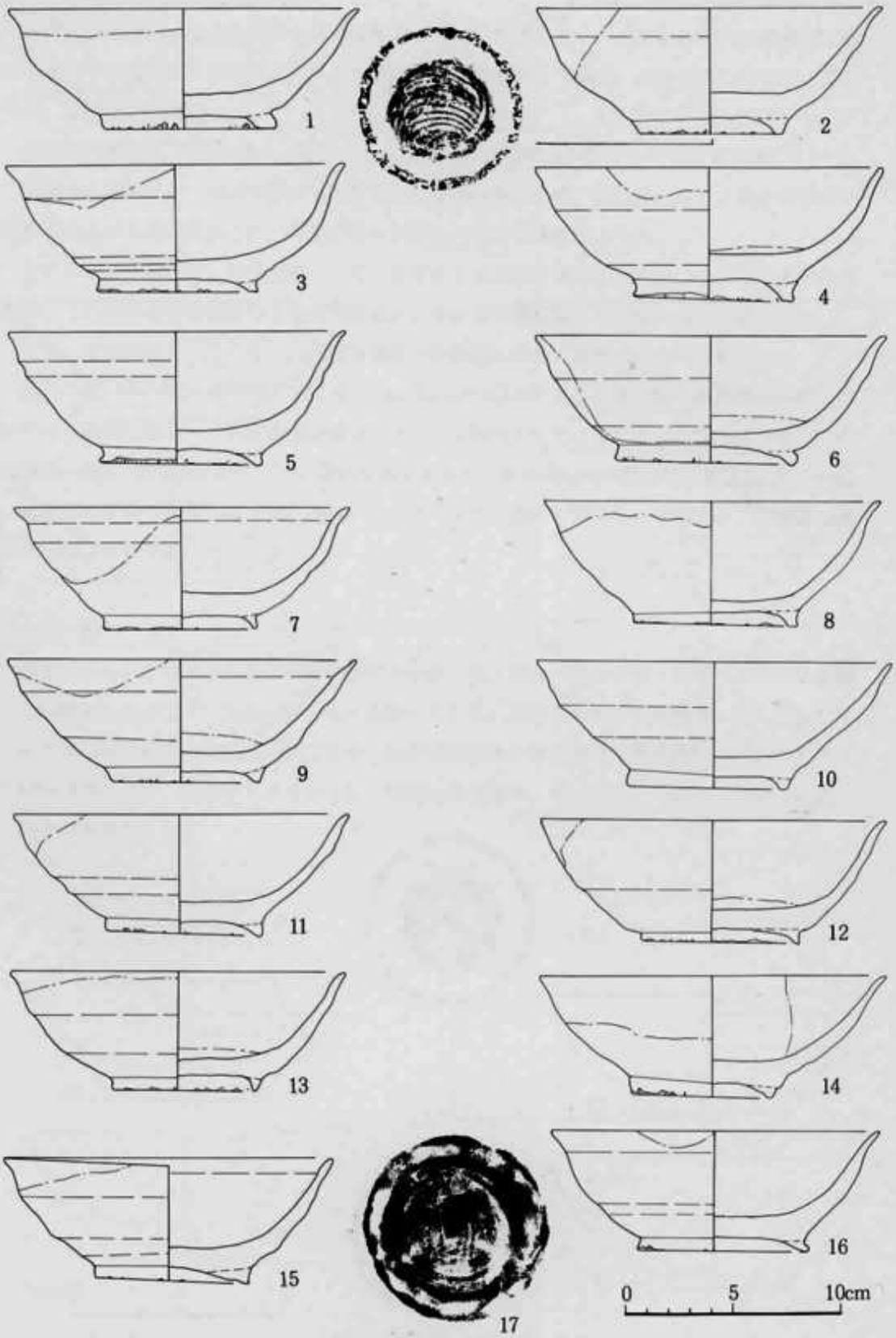
挿図10　焼成室焼台配置復原図



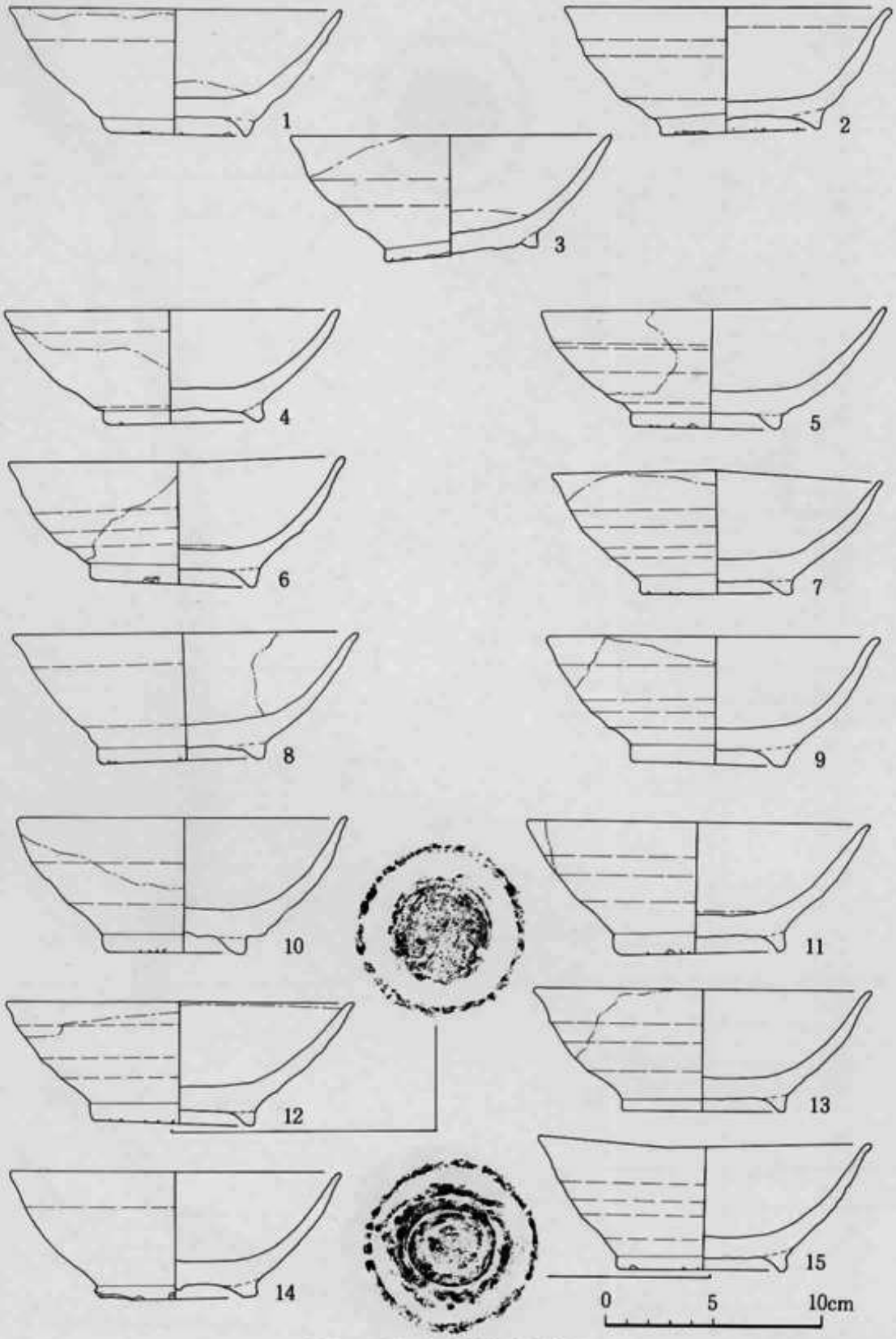
挿図11　灰原出土椀(1)



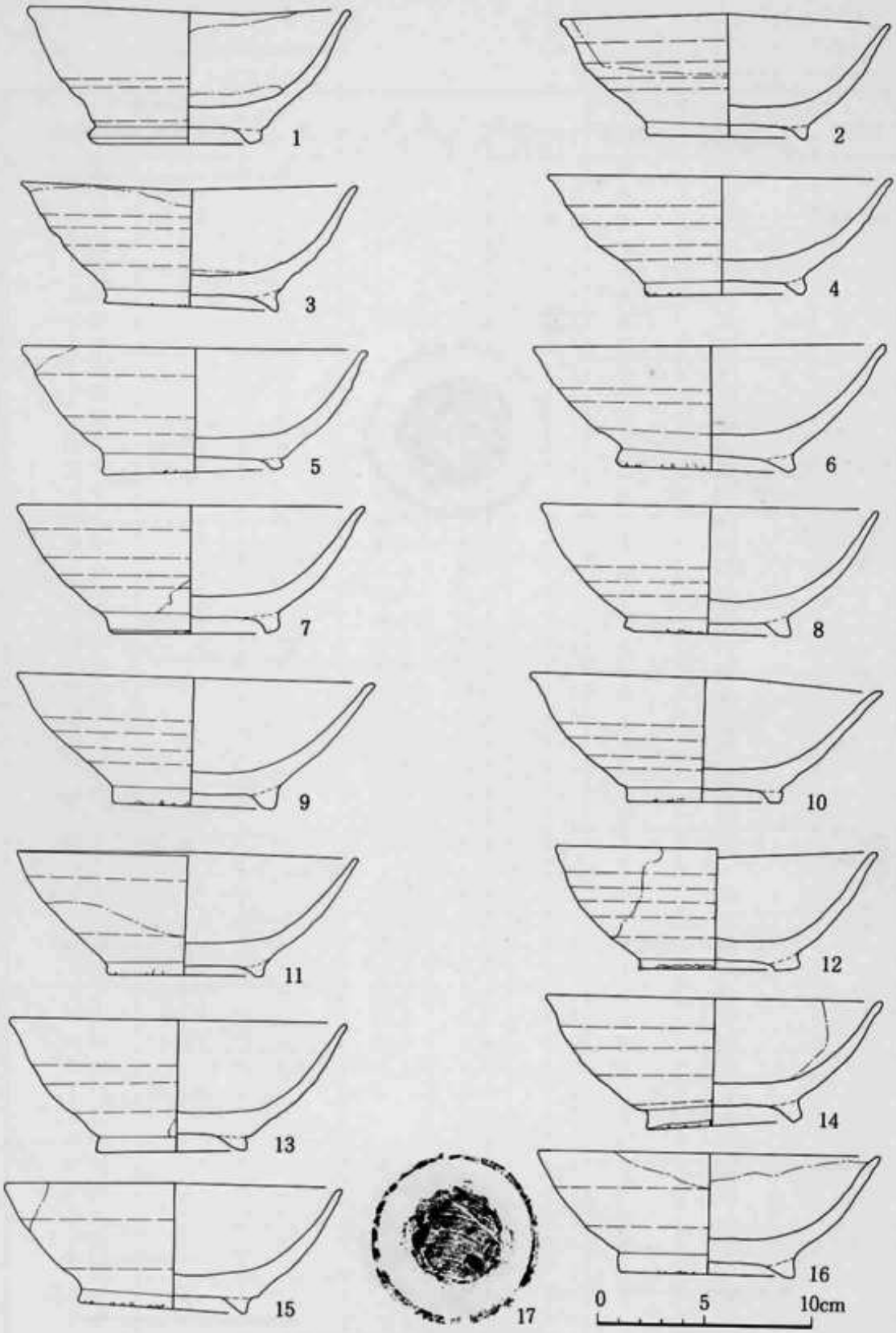
挿図12　灰原出土椀(2)



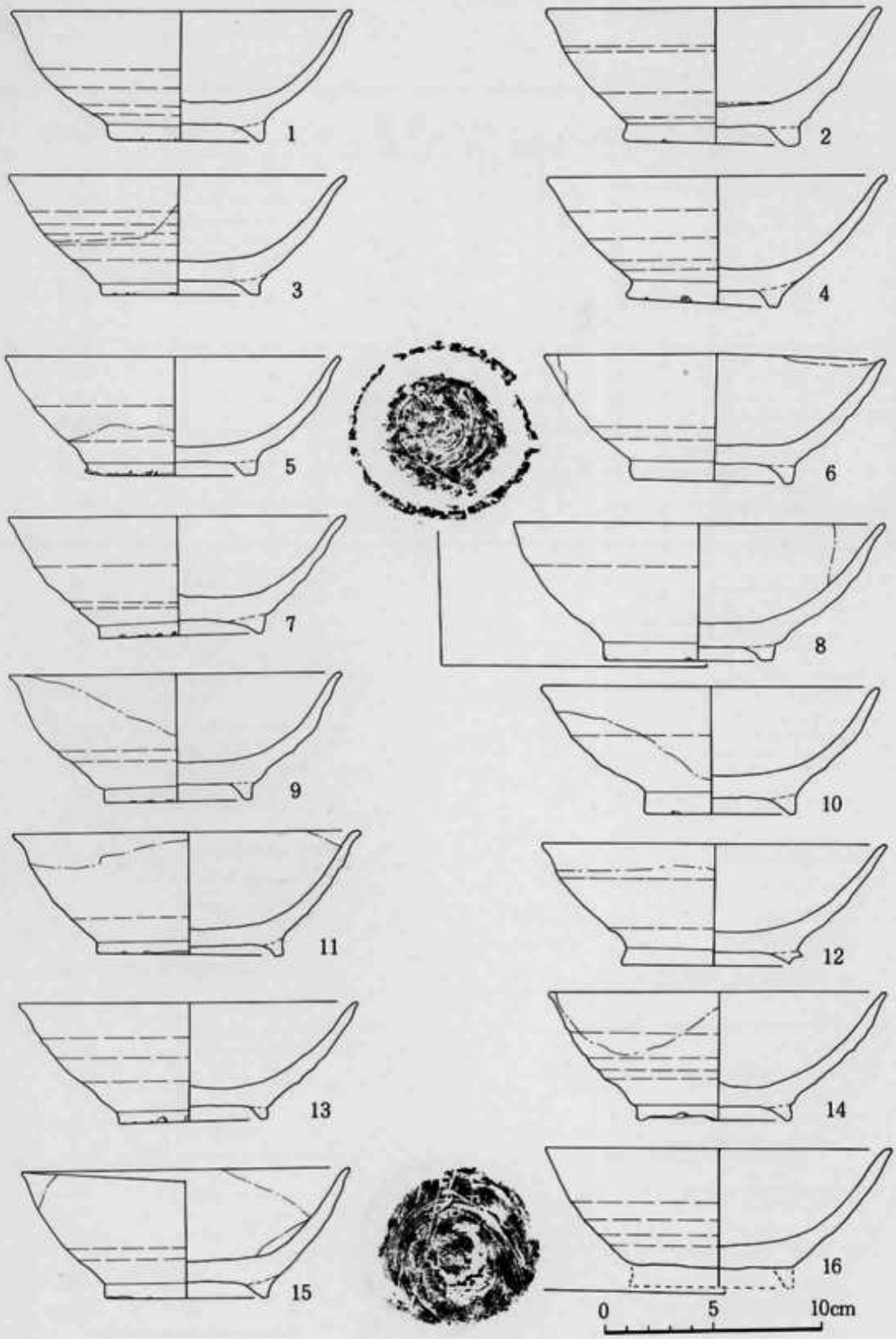
挿図13　灰原出土椀(3)



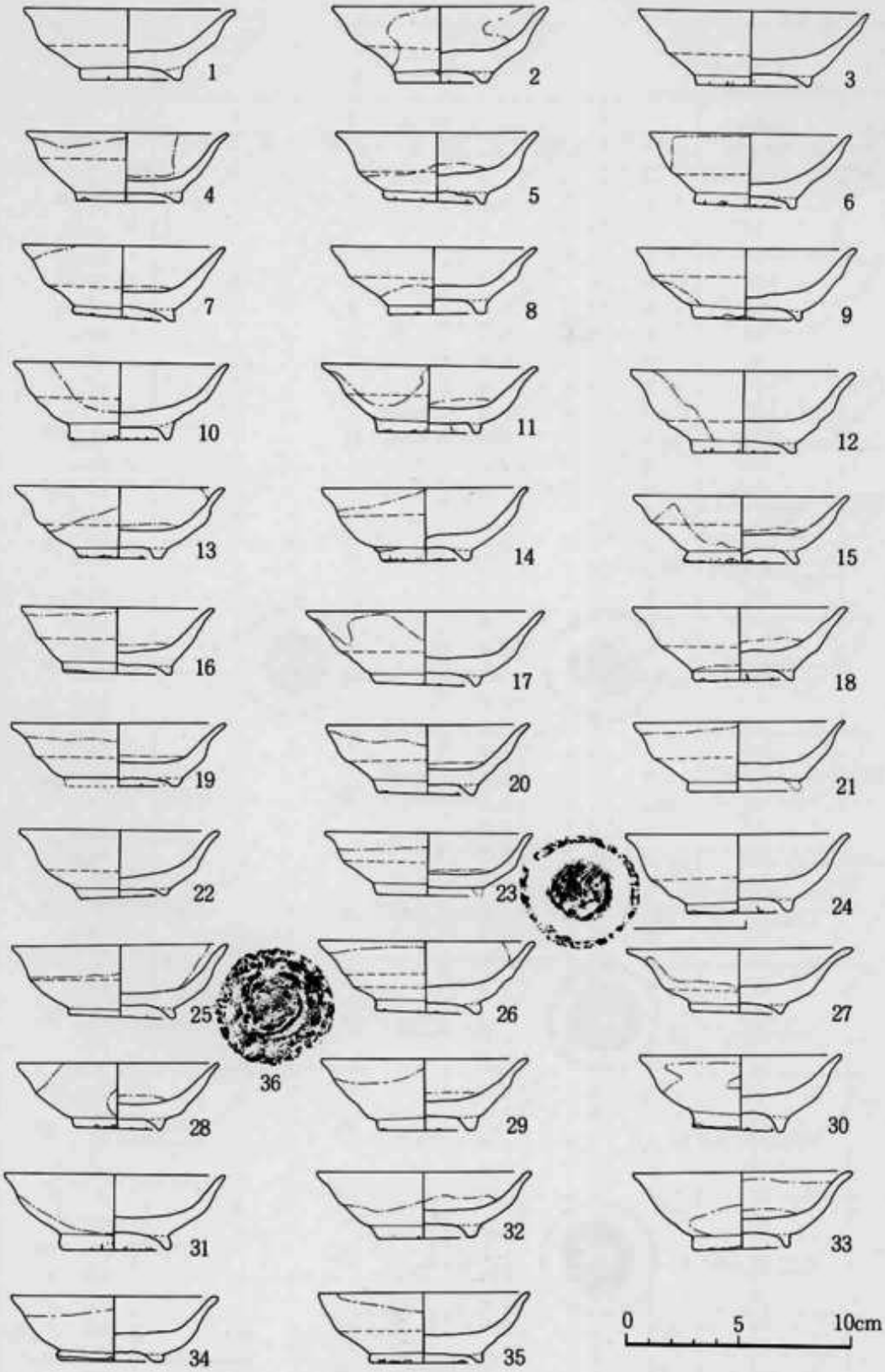
挿図14　灰原・右袖部出土椀(1)



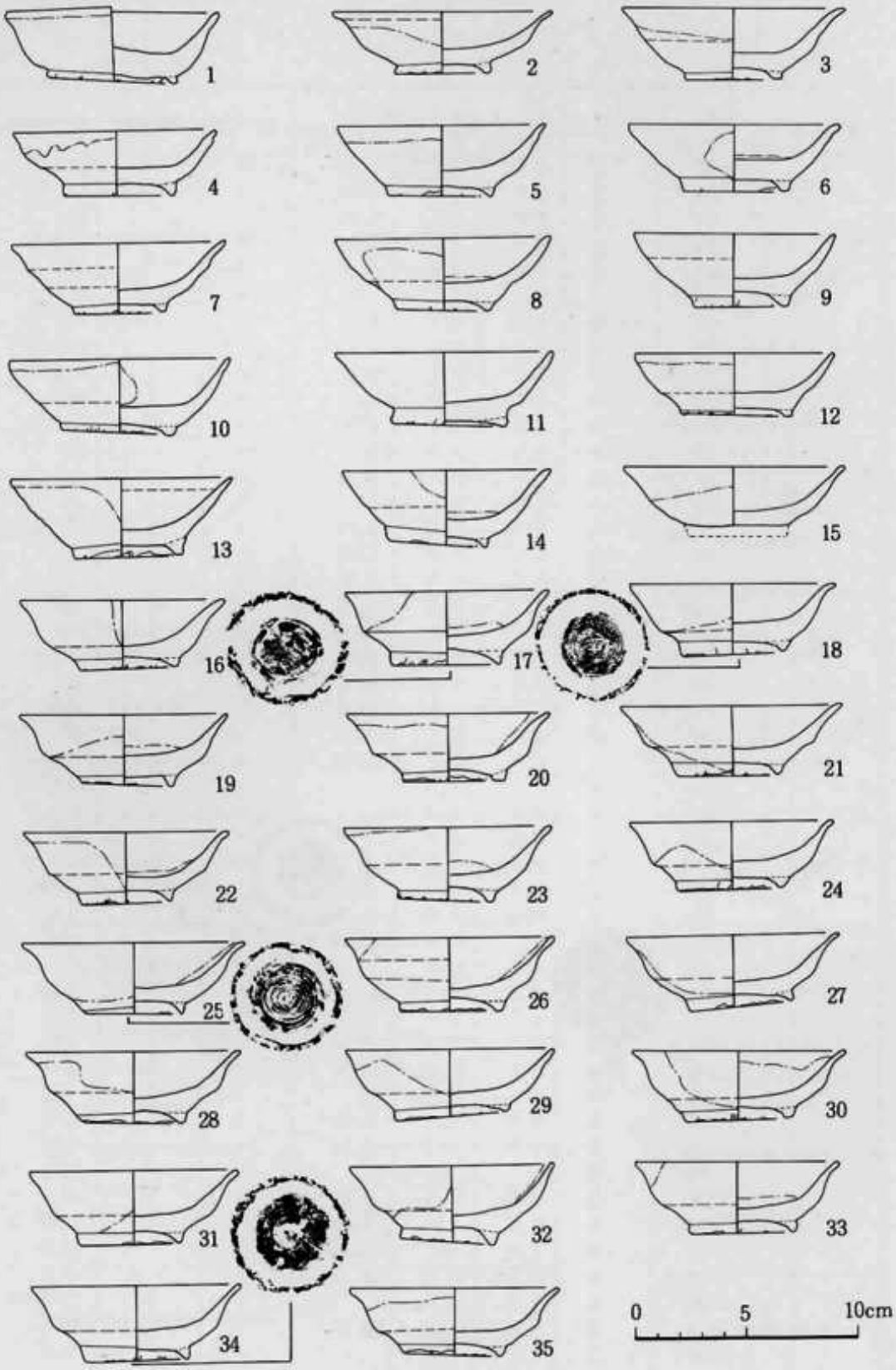
挿図15　右袖部出土椀(2)



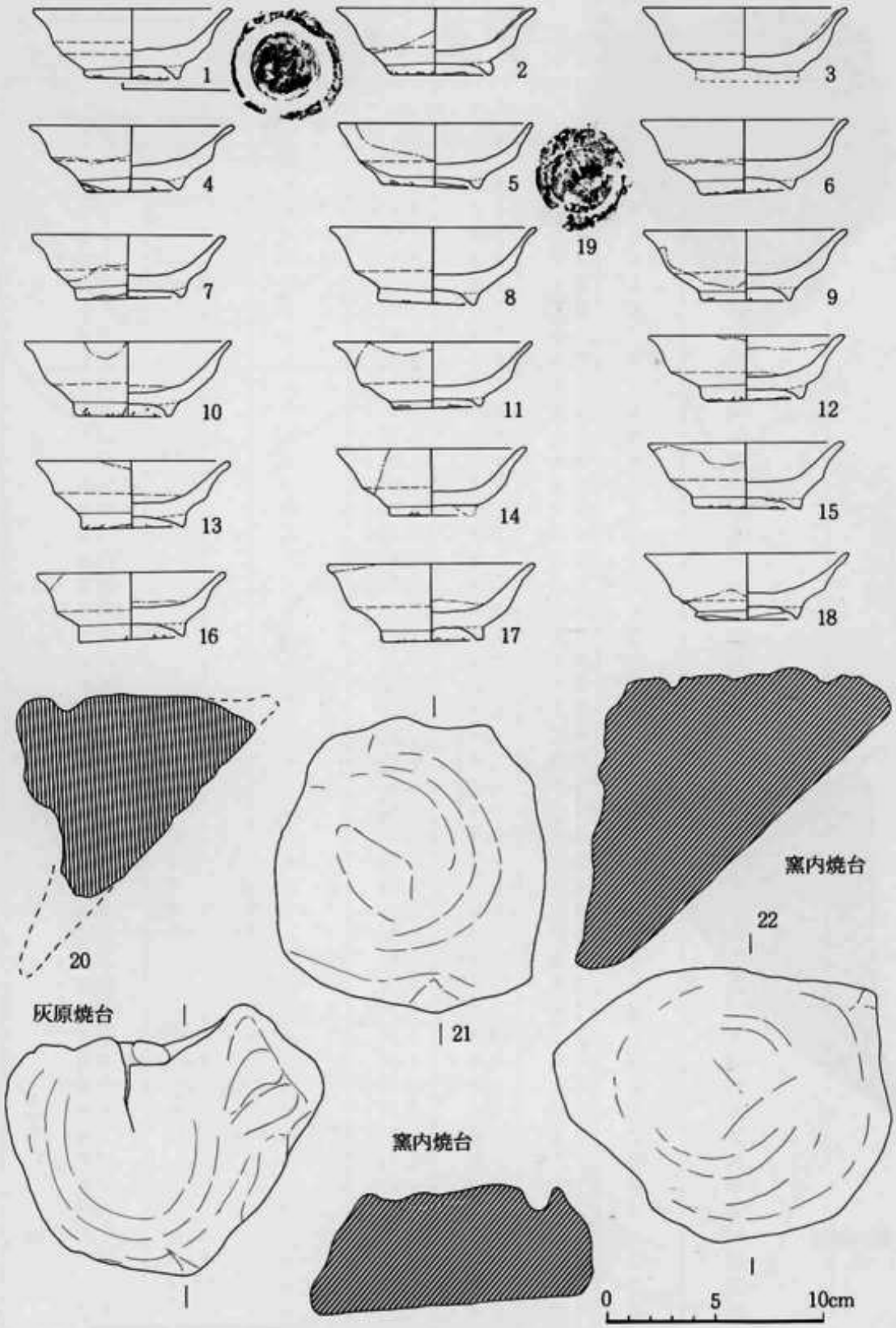
挿図16　右袖部、窯内出土椀


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
36
28
29
30
31
32
33
34
35
0
5
10cm

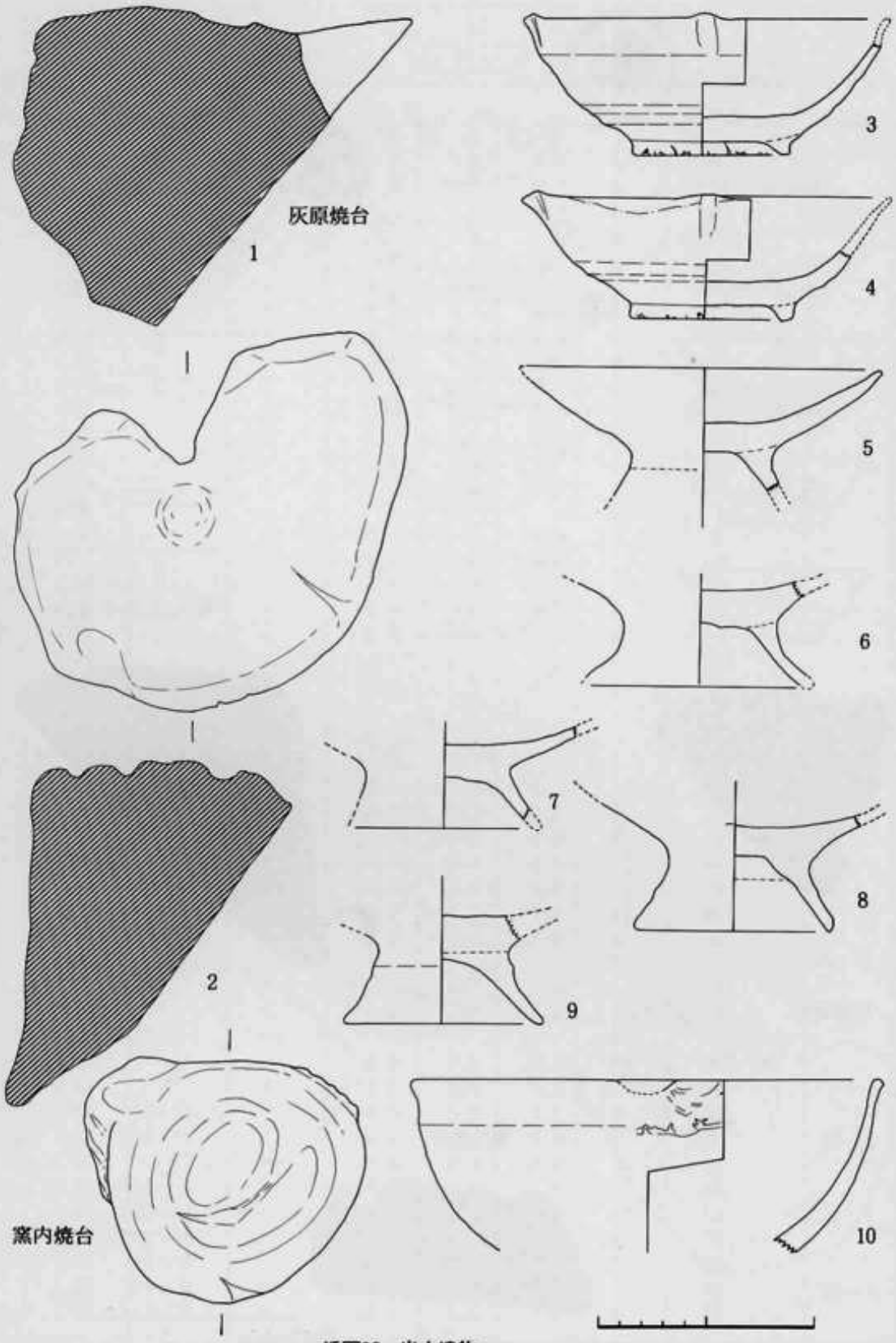
挿図17　灰原出土小皿



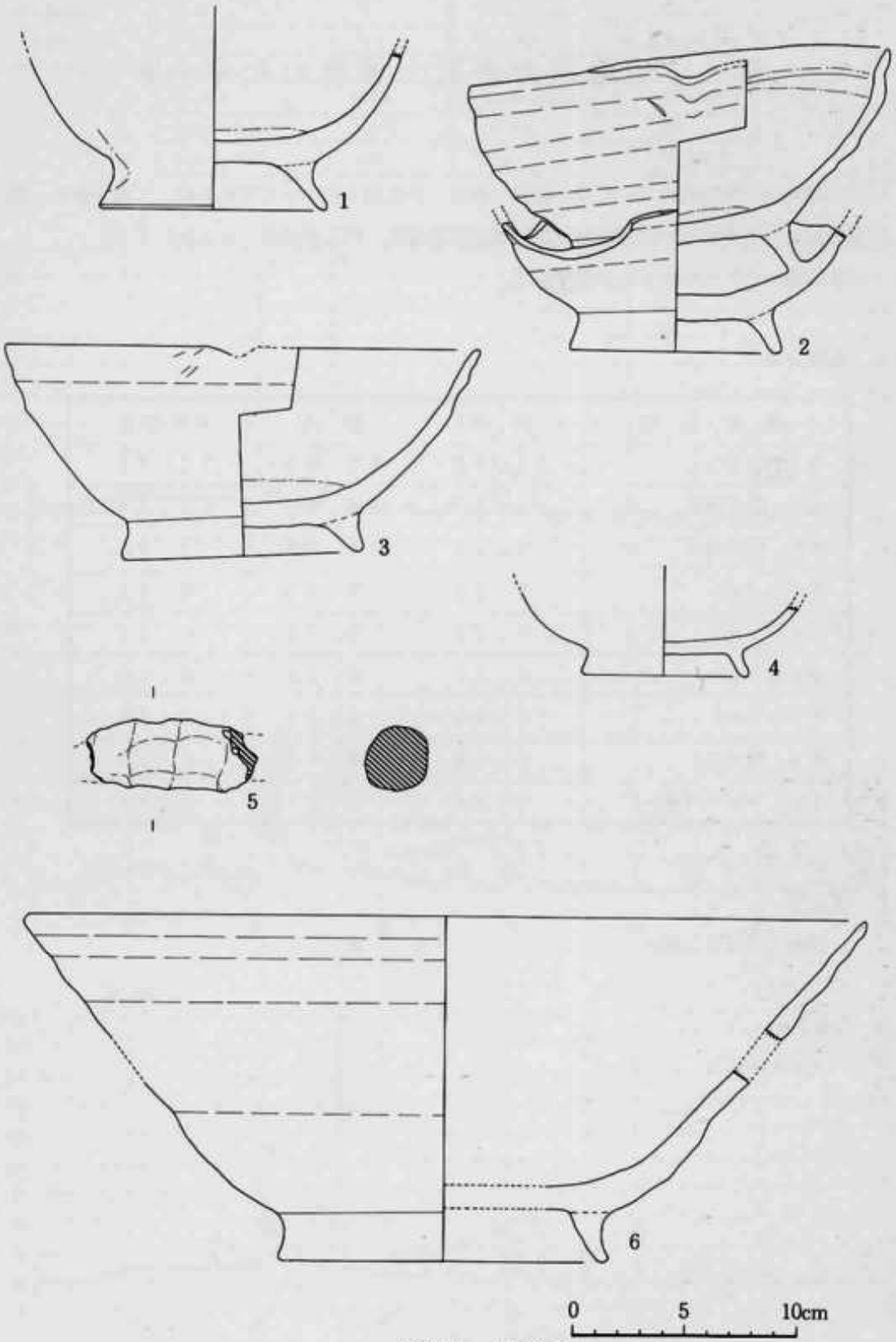
挿図18　灰原・右袖部出土小皿



挿図19　右袖部・窯内出土小皿及び焼台



挿図20　出土遺物



挿図21　出土遺物

Ⅶ　下切兎田古窯出土遺物の化学分析

山土遺物の化学分析については，製品，焼台，天井粘土について定量分析，X線回折を、更に製品について吸水率の試験を岐阜県陶磁器試験場長　朽名重治氏　にお願いした。

試験結果については次のとおりである。

1.　定量分析

供試品名	焼台	製品	天井粘土
SiO_2(%)	83.92	72.95	72.70
Al_2O_3(%)	11.07	20.80	19.34
Fe_2O_3(%)	2.27	1.35	2.99
TiO_2(%)	0.52	0.95	0.55
CaO (%)	0.08	0.08	0.28
MgO (%)	0.32	0.62	0.40
K_2O (%)	0.60	2.21	1.88
Na_2O (%)	0.09	0.09	0.11
IgLoss (%)	0.98	0.97	1.03

2.　吸水率

製品（灰原出土椀）　　5.1%

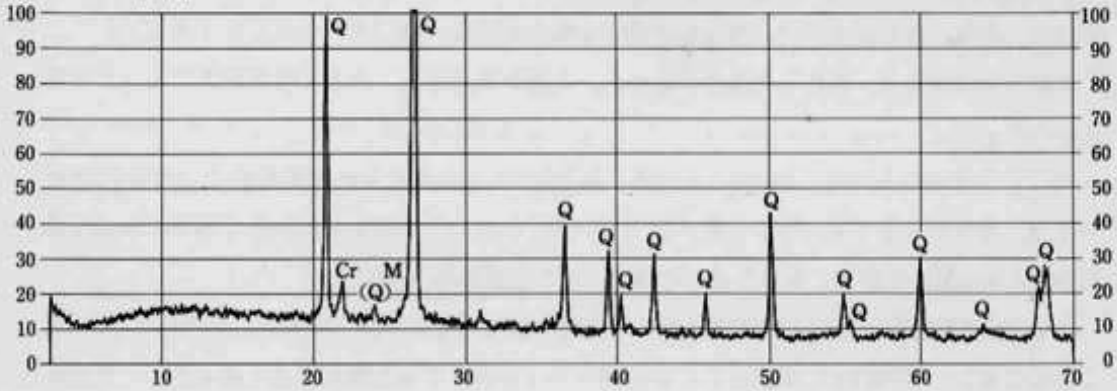
3.　X線回折

次頁のとおり

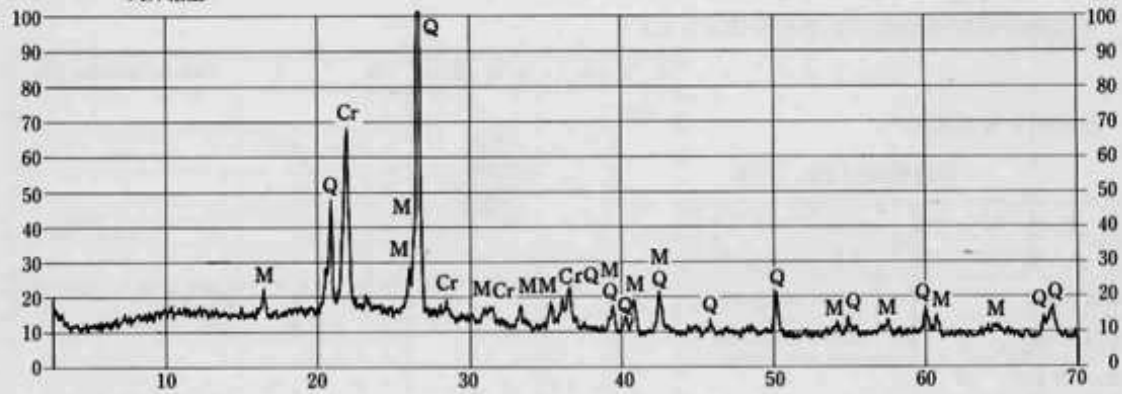
Q : Quartz
M : Mullite
Cr : Cristobalite

Target	Cu	ScanningSpeed	4°／min.
Filtage	Ni	ChartSpeed	4 cm／min.
Voltage	40KV	Divergency	1°
Current	20mA	ReceivingSlit	0.3 mm
CountFullScale	2000c/s	Detector	P.C.
TimeConstant	1 sec.	Date	60.3.25

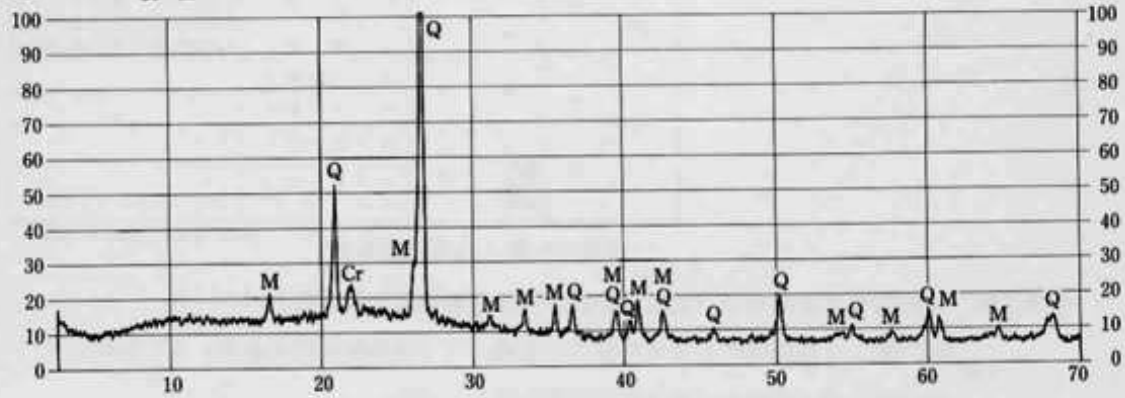
焼 台



天井粘土



製 品



Ⅷ　結　語

今回調査した下切兎田古窯は，掘り抜きによる地下式窖窯で，主軸長は9.95m，最大幅2.46m焼成室床面の傾斜角は43度を測るもので，分炎柱は掘り残して作り付けられていた。また，焚口部からは排水溝が延び，左右の袖部には製品置場と考えられる付属施設が検出された。

本窯で焼成された遺物は，椀と小皿がそのほとんどであるが，その他に数点づつ，輪花椀，片口鉢，高杯，鉢も出土した。出土した椀と小皿の割合は，椀73%，小皿27%である。

本窯の焼成回数は，出土した焼台の数から，５回が推定され，非常に短期操業であったと考えられた。

椀は，口径16.0cm内外，器高6.0cm内外，高台径7.6cm内外のものが平均的で，厚手の作りであり，高台には全てモミガラ圧痕が残っている。小皿は，口径9.4cm内外，器高3.2cm内外高台径4.9cm内外を測り，やはり高台にはモミガラ圧痕が残っている。

本窯の編年的位置を上記の窯体構造及び出土遺物から考えた場合，本窯から北西約１kmのところに位置し，昭和53年に調査された谷迫間（やばさま）２号古窯の型式に最も近いと思われる。美濃窯編年では，12世紀前葉に比定される，白瓷系の第Ⅱ期に入るものである。後に報告する熱残留磁気測定の結果も参考にしたい。

谷迫間２号古窯の

窯体構造と椀．小皿

主　軸　長	9.95　m	椀	口径	16.5cm内外
最　大　幅	2.40　m		器高	5.7cm内外
焼成室傾斜	44　度	小皿	口径	9.5cm内外
焚口左右袖	有		器高	3.1cm内外
排水施設	無			
分　炎　柱	掘り残し			

美濃の白瓷・山茶椀編年表

参考文献　可児町教育委員会『可児町谷迫間２号古窯発掘調査報告書』1978．3

田口昭二「美濃窯における白瓷と山茶椀」（『美濃陶磁歴史館報』Ⅱ）1983．3

田口昭二他『赤坂１号窯発掘調査報告書』　1985

灰原出土椀計測表

遺物番号	挿図番号	器種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口径	器高	高台径			
A 1	12—8	椀	16.8	5.6	9.0	A	60	
A 2		〃	16.1	5.9	7.6	A	60	
A 3		〃	16.0	5.5	7.1	B	40	
A 4		〃	16.0	5.4	7.4	B	30	
A 5		〃	15.8	6.5	7.6	A	10	
A 6	13—15	〃	15.3	5.7	7.6	A	60	
A 7		〃	16.6	5.7	7.8	A	20	
A 8		〃	16.2	6.7	7.7		40	
A 9		〃	15.0	6.1	6.6	B	30	
A10		〃	17.0	5.7	7.8	D	40	
A11		〃	16.0	5.8	8.0	A	30	
A12		〃	17.0	6.0	8.0	B	30	
A13		〃	(16.5)	6.1	6.0	A	10	
A14		〃	(16.6)	5.7	8.1	A	10	
A15		〃	(17.0)	6.0	7.0	B	20	
A16		〃	(17.0)	5.6	7.3	B	20	
A17		〃	(16.0)	5.6	7.5	B	10	
A18		〃	(16.0)	5.1	7.5	B	20	
A19		〃	(17.0)	5.6	7.0	B	10	
A20		〃	16.1	5.5	7.5	B	40	
A25		〃	17.0	6.1	7.4	C	50	
A26		〃	16.3	5.9	7.8	B	50	
A27	11—1	〃	17.0	6.3	7.7	B	60	
A28	13—16	〃	15.3	5.7	7.8	D	70	
A29	14—1	〃	15.4	6.0	7.0	B	50	
A30		〃	15.6	5.8	7.1	B	60	
A31		〃	17.2	5.7	7.3	B	50	
A32		〃	16.7	6.2	8.3	A	30	
A33		〃	16.0	5.5	7.8	B	40	
A34		〃	17.1	6.2	7.1	B	40	
A35	14—2	〃	15.1	6.1	7.7	B	60	
A36		〃	16.0	6.0	7.4	D	40	
A37		〃	16.0	5.5	6.6	B	30	
A38		〃	17.1	6.5	7.5	A	40	
A39		〃	17.0	5.9	8.1	B	30	
A40	13—17	〃	16.0	5.9	9.2		30	
B 1	12—9	〃	16.9	5.5	8.3	D	60	
B 2		〃	16.0	6.0	7.3	D	70	
B 3		〃	17.0	6.2	8.3	B	20	
B 4		〃	15.5	6.3	8.0	D	30	
B 5		〃	17.0	5.4	7.7	B	30	
B 6		〃	17.0	6.4	7.1	D	40	
B 7		〃	14.5	5.6	7.3	B	40	
C 1	11—7	〃	17.5	6.6	7.7	A	80	
C 2	11—8	〃	16.5	6.2	7.5	C	70	22—1
C 3	12—10	〃	16.0	5.9	7.0	C	80	
C 4		〃	16.1	6.3	6.2	B	60	

遺物番号	挿図番号	器種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口径	器高	高台径			
C 5	13—14	椀	16.0	5.9	7.0	A	30	
C 6		〃	17.0	6.3	8.0	A	30	
C 7		〃	16.7	6.5	7.7	A	40	輪花26-3
C 8		〃	17.5	6.4	8.3	B	40	
C 9		〃	16.7	6.8	7.7	A	50	
C10		〃	16.3	5.8	7.0	D	30	
C11		〃	(17.0)	6.4	8.0	A	10	
C12		〃	(16.5)	5.5	7.5	A	10	
C13		〃	(17.5)	5.6	8.7	B	10	
C14		〃	17.0	5.8	8.5	B	40	
C15		〃	15.0	6.2	8.0	D	30	
C16		〃	15.7	6.2	7.6	D	40	
C17		〃	(17.0)	6.8	7.7	C	10	
C18		〃	16.0	7.0	7.8		30	
C19		〃				B		
C20		〃	16.0	5.8	8.0	A	30	
C21		〃	17.0	6.8	8.0		30	
C22		〃	17.0	5.8	8.0	D	30	
C23		〃	17.6	6.6	8.1	C	30	
C24		〃	(18.0)	5.5	7.7	B	20	
C25		〃	16.4	6.5	7.4	A	40	
C26		〃	16.6	5.6	8.1	A	30	
C27		〃					20	
C28		〃	(17.2)	6.1	8.1	A	10	
C29		〃	(17.4)	6.5	8.1	A	20	
C30		〃	(19.0)	5.9	8.2	D	10	
C32		〃	(16.1)	6.2	8.0	B	10	
C33		〃	(17.0)	6.5	7.9	A	10	
C34		〃	16.4	6.3	8.1	D	40	
C35	12—11	〃	(15.5)	5.8	6.9	C	20	
C36		〃	15.9	5.9	7.9	A	40	
C37	12—18	〃	17.0	5.8	7.8	B	30	
C38		〃				C		
C39		〃	(15.5)	5.7	7.6	C	20	
C40		〃	(17.2)	5.6	8.2		20	
C42		〃				D		
C43		〃	16.0	6.0	8.3	A	30	
C44		〃	15.8	6.1	7.5	B	50	
C53	12—12	〃	16.0	5.8	7.7	A	50	
C54	12—13	〃	16.3	6.2	8.0	D	100	22－3
C55		〃	15.8	6.3	8.2		80	
C56	11—9	〃	16.5	6.1	7.6	D	90	
C57	12—14	〃	15.9	6.0	7.3	A	50	22－4
C58	12—15	〃	16.3	6.1	7.3	A	70	
C59	12—16	〃	16.3	6.6	7.5	C	90	
C60	14—3	〃	14.8	6.1	7.5		90	22－5
C61	11—10	〃	16.9	6.5	8.8	A	60	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
C62		椀	16.5	6.7	8.3	D	90	22－2
C63	11—11	〃	16.8	6.2	8.9	B	60	
C64	13—1	〃	16.2	5.7	7.8	C	60	
C65		〃	16.6	7.0	8.5	A	30	
C66		〃	15.9	5.7	7.5	A	40	
C67		〃	17.0	6.4	8.5	B	30	
C68		〃	18.0	6.6	9.0	A	30	
C69		〃	(16.6)	6.2	7.5	D	20	
C70	11—2	〃	17.0	6.2	8.4	D	90	
C71		〃	16.0	6.4	8.0	D	30	
C72	13—2	〃	16.0	5.8	7.3	A	60	
C73		〃	16.3	5.9	7.0	B	30	
C74		〃	17.2	6.3	7.4	D	40	
C75		〃				B		
C76		〃	(17.2)	6.4	8.2	C	20	
C77		〃	17.0	5.8	7.4	C	30	
C78		〃		6.6	7.7	B	20	
C79		〃	(16.7)	6.3	7.2	B	10	
C80		〃		5.5	7.4	B	5	
C81		〃	(17.0)	5.9	6.8	B	20	
C82		〃	(17.7)	6.4	8.7		5	
C83		〃	(17.0)	6.7	7.8	B	20	
C84		〃		5.6	7.9		100	
C85	11—12	〃	16.9	6.0	7.4	B	90	22－6
C86	13—3	〃	15.8	6.0	8.1	D	50	
C87		〃	17.0	6.0	7.5	A	30	
C88		〃	(17.2)	6.9	7.5	C	20	
C89		〃	16.0	6.1	7.5	D	40	
C90		〃	16.5	7.1	7.7	B	30	
C91		〃	(17.5)	6.6	8.7	D	20	
C92	11—13	〃	16.7	6.6	8.0	B	30	
C93		〃	15.6	6.5	7.7	D	30	
C94		〃	17.0	6.3	8.2	C	30	
C95		〃	17.0	6.9	8.5	A	30	
C96		〃	16.0	6.0	7.8	B	30	
C97		〃	17.4	6.2	7.2	A	30	
C98		〃	(17.0)	6.6	7.8	D	20	
C99		〃	17.0	6.4	8.2	A	40	
C 100		〃	16.3	5.9	7.5	D	30	
C 101		〃	(16.6)	6.2	8.5	B	20	
C 102		〃	17.4	(5.5)	7.7		30	
C 103		〃		7.0		A	30	
C 104		〃	16.8	6.0	7.9	A	40	
C 105		〃	17.2	6.3	8.0	D	30	
C 106		〃	16.4	5.8	7.3	C	30	
C 107		〃	16.4	5.4	7.3	C	30	
C 110		〃	17.8	5.9	8.1	C	40	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
C 111		椀	17.3	5.2	6.8	A	30	
C 112		〃	16.5	6.5	7.6	C	40	
C 113		〃	16.0	6.0	8.4	B	30	
C 114		〃	15.8	6.5	7.8	A	40	
C 115		〃	18.0	6.6	8.0	B	30	
C 116		〃		6.2	7.5		60	
C 117	11—3	〃	17.6	7.0	7.7	D	50	
C 118		〃	17.8	6.3	7.8	A	30	
C 119		〃	16.4	6.0	7.7	C	50	
C 120		〃	16.2	5.5	7.4		40	
C 121	13—4	〃	16.2	6.2	8.0	D	60	
C 122		〃	(15.8)	6.4	7.8	B	20	
C 123	11—14	〃	16.5	6.0	7.0	B	70	
C 124		〃		6.0	8.0	A	10	
C 125		〃	16.6	5.5	7.5		100	
C 127	13—5	〃	15.7	6.3	8.4	D	80	
C 128		〃	16.4	6.3	7.6	D	50	
C 129	11—15	〃	16.5	5.9	7.4	B	60	
C 130	13—6	〃	16.2	6.3	9.4	A	100	22—7
C 131	11—4	〃	17.7	6.5	7.7	D	80	
C 132	11—5	〃	17.3	6.7	8.3	D	60	22—8
C 133	12—1	〃	16.9	6.2	7.8	B	30	
C 134	13—7	〃	15.6	5.8	7.8	B	30	
C 135		〃	15.7	5.6	8.3		60	
C 137		〃		6.6	7.0	A	10	
C 138		〃		6.3	7.7	A	30	
C 142	12—2	〃		6.6	8.2	D	40	
C 143	12—3	〃	17.2	6.8	8.0	B	100	22—9
D 1		〃	16.1	6.1	8.0	D	30	
D 2		〃	15.3	6.1	8.0	B	40	
D 3		〃	17.2	5.7	7.4	D	40	
D 4	12—17	〃		5.8	7.5	D	30	
D 5		〃		6.0	8.2	B	20	
D 6		〃		6.0	7.1	A	30	
D 7		〃	16.3	6.1	7.6	B	30	
D 8		〃	16.6	5.8	7.3	B	40	
D 9		〃		5.8	7.7	D	20	
D10		〃	16.3	5.7	7.3	B	30	
D11		〃	15.8	5.9	6.8	B	30	
D12		〃		5.8	7.6	B	30	
D13		〃	16.2	6.4	8.0	D	30	
D14		〃	16.8	6.4	6.2	A	30	
D15		〃	15.0	5.5	8.0	A	30	
D16		〃	(17.0)	6.0	7.8	D	20	
D17		〃		5.4	8.2	A	20	
D18		〃	(16.0)	5.7	7.3	B	10	
D19		〃		6.2	8.3	C	20	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
D20		椀	16.0	6.1	6.1	B	30	
D21	13—8	〃	16.1	5.9	7.2	B	30	
D22	13—9	〃	16.3	5.8	8.4	D	60	22—10
D23		〃	16.8	5.4	7.5	B	100	
D24		〃		6.3	7.6	B	30	
D25		〃		5.8	7.5	A	30	
D26		〃	16.1	5.8	7.3	A	30	
D27		〃		6.3	8.3	D	20	
D28		〃			7.5	B	30	
D29		〃		6.1	7.7	B	0	
D30		〃			7.8	B	20	
E 1	11—6	〃	17.2	6.4	7.7	D	90	
E 2	12—4	〃	16.8	6.3	7.5	B	90	22—11
E 3		〃	15.5	6.3	7.4	B	60	
E 4		〃	15.8	5.8	8.1	C	40	
E 5		〃	16.5	6.7	8.7	A	30	
E 6		〃	16.8	6.1	7.6	B	60	
E 7		〃	15.1	5.6	8.1	C	30	
E 8		〃	16.9	6.4	7.5	A	70	
E 9		〃	15.5	5.8	8.3	A	50	
E10		〃	16.8	6.2	7.6	B	30	
E12		〃	15.6	5.6	7.5	B	50	
E13		〃	15.2	5.8	7.7		40	
E14		〃	16.0	5.5	7.2	B	50	
E15		〃	15.9	6.2	7.4	B	70	
E16		〃	17.2	5.7	7.5	A	70	
E17	13—10	〃	16.2	6.3	7.9	B	50	
F 1	12—5	〃	16.7	6.5	7.5	B	100	22—12
F 2		〃			7.5	B		27—4
F 3	12—6	〃	16.9	5.8	7.9	B	30	
F 4		〃	16.5	5.8	6.7	A	80	
F 5		〃	16.3	5.4	8.2	A	60	
F 6	13—11	〃	15.7	5.6	7.3	A	50	
F 7	12—7	〃	16.6	6.3	7.4	C	30	
F 8		〃	15.5	6.0	7.0	A	30	
F 9	13—12	〃	16.0	5.6	7.7	B	40	
F10		〃	(15.5)	6.2	7.8	B	20	
F11	11—16	〃		6.1	7.8		30	
F12		〃		5.8	7.3	B	30	
F18		〃		6.3	7.7	C	20	
F19		〃	16.4	5.7	8.8	B	30	
F20		〃		6.0	7.3	D	10	
F21		〃		5.9	7.8	B	5	
F22		〃		6.3	8.1	B	5	
F23		〃		5.1	7.3	B	20	
F24		〃		5.6	7.0	A	30	
F25		〃		5.6	7.1		20	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
F26		椀		6.3	6.3	A	10	
F28		〃		5.6	8.2	C	10	
F31	13—13	〃	15.7	5.6	7.0	C	60	
F32		〃	16.3	6.0	7.3	B	40	
F33		〃	16.1	6.1	7.1	A	30	
F34		〃	16.0	6.0	7.5	B	40	
F35		〃				D		
F36		〃	16.7	6.3	7.8	C	50	
F37		〃				B		
F39		〃	15.6	6.2	8.2	B	30	
F41		〃	17.0	5.8	8.4	A	40	
F42		〃	(16.8)	5.9	8.1	A	20	
F43		〃	17.3	6.7	8.0	D	30	
F44		〃	15.7	5.9	8.8	C	40	
F45		〃	(17.5)	6.0	7.5	D	20	輪花26-4

右袖部・窯内出土椀計測表

遺物番号	挿図番号	器種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口径	器高	高台径			
右ソ1	14—4	椀	15.3	5.4	7.6	B	100	23—1
右ソ2	14—5	〃	16.1	6.0	7.2	B	90	23—2
右ソ3	14—6	〃	16.0	6.0	7.6	B	100	23—3
右ソ4		〃	16.1	6.2	7.1	B	90	
右ソ5	14—7	〃	15.4	5.6	6.4	C	80	
右ソ6		〃	15.5	5.8	7.5	C	80	
右ソ7	14—8	〃	16.1	6.0	7.6	C	80	
右ソ8	14—9	〃	15.4	6.1	7.0	A	70	
右ソ9	14—10	〃	15.9	6.2	6.4	D	100	23—4
右ソ10		〃	15.7	6.9	6.9	A	90	
右ソ11	14—11	〃	16.0	6.3	7.7	D	90	
右ソ12	14—12	〃	16.1	5.8	7.5	A	90	
右ソ13	14—13	〃	15.9	5.5	7.4	B	100	23—5
右ソ14	14—14	〃	15.5	6.5	7.5	A	100	23—6
右ソ15	14—15	〃	16.2	6.4	7.7	A	90	
右ソ16	15—1	〃	15.7	6.4	7.8	D	100	
右ソ17		〃	15.2	5.7	7.9	B	60	
右ソ18		〃	15.7	5.3	6.8	B	70	
右ソ19		〃	15.7	6.1	6.9	D	60	
右ソ21	15—2	〃	15.4	5.7	7.4	B	70	
右ソ22	15—3	〃	16.5	5.9	8.1	B	90	
右ソ23	15—4	〃	16.0	5.7	7.0	B	70	
右ソ24	15—5	〃	16.5	6.1	8.2		90	
右ソ25		〃	16.3	5.7	7.4	D	70	
右ソ26	15—6	〃	16.2	5.9	8.3	B	60	
右ソ27	15—7	〃	16.2	6.1	7.9	C	90	
右ソ28		〃	16.2	5.8	7.5	C	70	
右ソ29		〃	15.5	6.0	6.9	B	80	
右ソ30	15—8	〃	15.8	6.2	7.4	A	30	
右ソ31		〃	15.6	6.0	7.7	D	80	23—7
右ソ32	15—9	〃	16.7	5.8	8.0	C	70	
右ソ33	15—10	〃	16.4	6.1	7.1	C	80	
右ソ34		〃	16.3	5.9	7.8	A	80	
右ソ35		〃	15.3	5.5	6.6	D	60	
右ソ36	15—11	〃	16.2	5.8	7.7	C	90	23—8
右ソ37	15—12	〃	15.7	5.8	7.5	D	80	
右ソ38	15—13	〃	15.8	6.3	7.3	B	80	
右ソ39	15—14	〃	15.5	6.5	7.0	B	70	
右ソ40	15—15	〃	15.4	6.4	7.5	B	70	
右ソ41		〃	15.7	6.4	7.9	B	30	
右ソ42		〃	16.4	6.3	7.5	B	90	
右ソ43		〃	16.2	6.3	7.4	D	90	
右ソ44		〃	15.8	6.1	8.0	B	30	
右ソ45		〃	15.3	6.0	8.0	B	70	
右ソ46	15—17	〃	16.0	5.8	7.8	A	60	
右ソ47		〃	16.0	5.6	8.1	C	40	
右ソ48	15—16	〃	15.9	5.6	8.0	B	60	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			高台形	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
右ソ49	16—1	椀	17.2	6.0	7.2	A	60	
右ソ50		〃	15.9	6.4	7.7	B	90	
右ソ51	16—2	〃	15.7	6.9	8.3	D	90	
右ソ52		〃			10.4			
右ソ53		〃	16.7	5.8	7.6	A	80	
右ソ54		〃	16.4	6.2	7.3	A	60	
右ソ55		〃	16.1	6.0	7.3	B	90	
右ソ56		〃	15.0	5.8	6.5	B	50	
右ソ57	16—3	〃	15.4	5.4	7.4	C	60	
右ソ60	16—4	〃	15.6	6.1	7.4	A	80	
右ソ61		〃	15.3	6.0	7.3	D	40	
右ソ62		〃	16.0	5.9	8.0	A	40	
右ソ63		〃	16.1	6.1	7.1	B	40	
右ソ64		〃				C		
右ソ65		〃	15.6	6.0	7.3	C	30	
右ソ66		〃	15.3	5.7	7.6	A	50	
右ソ67		〃	17.0	5.7	7.9	A	30	
右ソ68		〃	15.9	6.1	7.7	A	50	
右ソ69		〃	15.4	6.2	7.3	D	50	
右ソ70		〃	16.0	5.6	7.7	A	50	
内1	16—5	〃	15.2	5.4	7.5	A	90	23—9
内2	16—6	〃	15.7	5.9	7.3	D	90	
内3		〃		5.8	8.0	B	30	
内4	16—7	〃	15.5	5.5	7.5	B	70	
内5		〃	16.2	5.5	7.6	D	30	
内6		〃	16.0	6.0	7.6	D	40	
内7		〃		5.4	7.7	B	20	
内8		〃		5.7	8.0	D	10	
内9	16—8	〃	17.3	6.7	8.3	A	30	
内11		〃	(16.0)				20	
内12		〃	15.5	6.0	7.8	C	50	
内13	16—9	〃	15.3	5.8	6.8	C	60	
内14	16—10	〃	15.5	6.2	7.6	B	70	
内15	16—11	〃	15.9	5.6	8.3	C	40	
内16	16—12	〃	15.7	5.6	7.8	D	30	
内17		〃	(16.0)	6.1	8.2	C	20	
内18		〃	15.8	5.7	7.4		30	
内19		〃	15.4	6.2	7.5			
内20	16—13	〃	15.3	5.6	6.9	D	100	23—10
内21	16—14	〃	16.0	5.9	7.2	A	80	23—11
内22	16—15	〃	15.9	5.6	7.7	A	80	23—12

灰原出土小皿計測表

遺物番号	挿図番号	器種	法量（cm）			器型	口縁部残存率（%）	図版
			口径	器高	高台径			
A 1		小皿	9.6	3.2	4.9	Ⅱ	90	
A 2	17—1	〃	9.3	3.2	4.8	Ⅰ	90	
A 3		〃	9.8	3.0	5.0	Ⅱ	70	
A 4		〃	9.0	3.0	5.0	Ⅰ	80	
A 5	17—28	〃	9.1	2.8	4.4	Ⅱ	70	
A 6	17—29	〃	9.2	3.0	4.8	Ⅱ	70	
A 7	18—8	〃	9.8	3.6	4.4	Ⅱ	70	
A 8	17—2	〃	9.6	3.3	4.6	Ⅰ	70	
A 9	17—3	〃	10.1	3.3	5.4	Ⅰ	90	24—1
A10		〃	9.9	3.0	4.7	Ⅰ	70	
A11	18—9	〃	9.1	3.4	4.6	Ⅱ	60	
A12		〃	9.6	3.9	5.1	Ⅱ	60	
A13		〃	8.9	2.8	4.8	Ⅰ	70	
A14		〃	9.5	3.3	5.0	Ⅰ	90	
A15		〃	8.5	2.9	4.9	Ⅰ	90	
A16	17—4	〃	9.0	3.1	5.0	Ⅰ	80	
A17		〃	8.5	3.1	4.6	Ⅰ	60	
A18		〃	9.9	3.8	4.6	Ⅱ	80	
A19		〃	8.7	3.2	4.1	Ⅰ	60	
A20		〃	9.1	3.0	5.1	Ⅰ	80	
A21		〃	8.9	3.1	4.7	Ⅰ	80	
A22		〃	8.7	3.1	4.7	Ⅰ	80	
A23		〃	8.9	3.2	5.1	Ⅱ	60	
A24		〃	9.7	3.1	4.7	Ⅱ	60	
A25		〃	9.7	3.5	5.1	Ⅱ	50	
A26		〃	10.0	3.6	4.8	Ⅱ	60	
A27		〃	9.1	3.7	4.7	Ⅱ	60	
B 1		〃	9.2	3.3	5.0	Ⅰ	60	
B 2	17—30	〃	9.1	3.5	4.4	Ⅱ	90	
B 3	17—5	〃	9.1	3.2	4.8	Ⅰ	100	24—2
B 4	17—6	〃	9.0	3.3	5.0	Ⅰ	70	
B 5		〃		3.4	4.8	Ⅰ	60	
B 6	17—7	〃	9.2	3.2	4.9	Ⅰ	80	
B 7	17—31	〃	9.8	3.3	4.9	Ⅱ	90	
B 8		〃	9.5	3.2	4.9	Ⅱ	80	
B 9		〃	9.2	3.0	4.9	Ⅰ	70	
B10		〃	9.5	3.1	4.5	Ⅰ	40	
B11		〃	9.0	3.3	5.0	Ⅰ	40	
B13		〃	9.7	2.9	5.1	Ⅱ	30	
B13		〃	9.0	3.4	5.2	Ⅰ	50	
B14		〃	9.5	3.4	4.8	Ⅰ	30	
B15		〃	9.3	3.2	5.1	Ⅱ	60	
B17		〃	9.2	3.1	5.3	Ⅱ	20	
C 1		〃	9.7	2.9	4.7	Ⅱ	80	
C 2		〃	9.6	3.0	4.3	Ⅱ	70	
C 3		〃	9.4	2.8	5.2	Ⅱ	80	
C 4	18—10	〃	9.9	3.4	5.5	Ⅱ	80	

遺物番号	挿図番号	器　種	法　量　（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
C 5		小　皿	10.2	3.5	5.5	Ⅱ	60	
C 6	17—32	〃	9.7	3.2	4.5	Ⅰ	40	
C 7		〃	9.6	3.2	4.6	Ⅰ	100	24－3
C 8		〃	9.1	3.1	5.8	Ⅱ	100	
C 9		〃	9.2	3.2	4.7	Ⅰ	70	
C10		〃	9.3	3.2	5.0	Ⅰ	70	
C11		〃	9.6	3.3	4.4	Ⅰ	90	
C12	17—8	〃	9.2	3.3	4.4	Ⅰ	90	24－4
C13	17—33	〃	9.7	3.4	4.7	Ⅰ	80	
C14	18—11	〃	9.8	3.1	5.3	Ⅱ	80	
C15		〃	9.4	2.9	5.3	Ⅰ	90	
C16		〃	9.8	3.1	4.7	Ⅰ	90	
C17		〃	9.7	3.4	4.9	Ⅱ	80	
C18	17—34	〃	9.3	3.0	5.2	Ⅰ	90	
C19	17—9	〃	9.7	3.2	4.9	Ⅰ	90	
C20		〃	10.0	3.7	4.8	Ⅱ	60	
C21	17—10	〃	9.5	3.4	5.0	Ⅰ	80	
C22		〃	9.9	3.1	5.0	Ⅰ	70	
C23	17—11	〃	9.5	3.0	4.7	Ⅰ	60	
C24	18—12	〃	9.1	2.9	5.0	Ⅱ	80	
C25		〃	9.6	3.0	5.2	Ⅱ	90	
C26	17—35	〃	9.4	3.2	5.1	Ⅰ	90	
C28		〃	10.6	3.5	5.4	Ⅱ	80	
C29		〃	9.0	3.2	4.4	Ⅰ	90	
C30		〃	9.4	3.5	4.8	Ⅱ	70	
C31		〃	9.4	3.0	4.8	Ⅰ	30	
C32		〃	9.8	3.1	4.1	Ⅰ	50	
C33		〃	9.3	3.2	4.7	Ⅰ	50	
C35		〃	9.5	3.4	4.8	Ⅱ	60	
C36		〃	9.7	3.2	5.0	Ⅱ	60	
C37	18—1	〃	9.2	3.2	4.9		90	
C38		〃	9.2	3.2	4.9	Ⅰ	70	
C39		〃	9.4	3.4	5.6	Ⅰ	90	24－5
C40		〃	9.6	3.7	4.5	Ⅰ	60	
C42		〃	9.4	3.6	4.9		60	
C43		〃	9.1	3.2	4.8	Ⅰ	80	
C44		〃	9.3	3.1	4.9	Ⅰ	60	
C45		〃	9.4	3.1	4.7	Ⅰ	90	
C46		〃	9.6	3.5	4.9	Ⅰ	100	
C47		〃	9.4	3.1	5.0	Ⅰ	60	
C48		〃	9.6	3.0	5.2	Ⅰ	70	
C49	18—2	〃	9.8	3.0	4.6	Ⅰ	90	
C50		〃	9.6	3.1	4.5	Ⅰ	70	
C51		〃	9.3	3.2	4.7	Ⅰ	70	
C52		〃	9.1	3.0	5.0	Ⅰ	70	
C53	18—13	〃	9.8	4.0	5.2	Ⅱ	100	24－6
C54	17—12	〃	10.0	3.7	5.1	Ⅰ	80	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
C55	18—3	小　皿	10.0	3.5	4.6	Ⅱ	90	
C56		〃	9.9	3.5	4.6	Ⅱ	60	
C57	17—13	〃	9.4	3.1	4.1	Ⅰ	90	
C58		〃	9.3	3.3	5.4		70	
C59	18—4	〃	9.2	3.0	4.8	Ⅱ	50	24－7
C60		〃	9.4	3.5	5.0	Ⅱ	50	
C61		〃	9.7	2.9	4.9	Ⅱ	60	
C62		〃	9.4	3.0	5.0	Ⅱ	100	
C63	17—14	〃	9.9	3.2	4.7	Ⅰ	70	
C64		〃	9.3	3.1	5.5	Ⅱ	60	
C65	17—15	〃	9.6	3.1	5.4	Ⅰ	100	24－8
C66		〃	9.4			Ⅰ	100	
C68		〃	9.4	3.0	5.2	Ⅱ	40	
C69		〃	9.2	3.4	4.3	Ⅱ	60	
C72		〃	9.5	3.3	4.6	Ⅲ	70	
C73		〃	9.3	3.6	4.7	Ⅱ	60	
C74		〃	9.6			Ⅱ	60	
C75		〃	9.5	3.5	4.9	Ⅱ	80	
C76		〃		3.0	5.0	Ⅱ	70	
C78		〃	9.2	3.1	5.2	Ⅲ	40	
C79		〃	8.9	3.1	5.5	Ⅱ	70	
C83		〃	9.5	2.7	4.7	Ⅰ	70	
C84		〃	9.4	3.0	5.0	Ⅰ	90	
C85		〃	9.9	3.1	5.5	Ⅲ	80	
C86	17—16	〃	8.7	3.1	5.0	Ⅰ	70	
D 1		〃	9.4	3.1	4.6	Ⅱ	70	
D 2	18—2	〃	9.9	3.4	5.0	Ⅱ	90	24－9
D 3		〃	9.6	3.4	4.9	Ⅱ	70	
D 4	17—17	〃	10.6	3.2	5.0	Ⅰ	80	
D 5	17—18	〃	9.4	3.3	4.7	Ⅰ	100	24－10
D 6	18—14	〃	9.5	3.5	5.0	Ⅲ	70	
D 7		〃	9.4	3.1	5.2	Ⅲ	60	
D 8		〃	9.5	3.4	4.9	Ⅱ	40	
D 9		〃	9.7	3.5	4.8	Ⅱ	70	
D10		〃	9.9	3.4	4.1	Ⅰ	40	
D11		〃	9.7	3.1	4.9	Ⅱ	50	
D16		〃	9.4	3.2	4.6	Ⅱ	40	
D17	17—19	〃	9.7	2.8	5.1	Ⅰ	90	
D19		〃	9.8	3.1	5.4	Ⅲ	50	
D20		〃	10.1	3.3	4.7	Ⅱ	40	
D22		〃	9.5	3.3	4.3	Ⅱ	40	
D24		〃	8.7	3.3	4.5	Ⅱ	30	
D25		〃	9.9	3.2	5.6	Ⅱ	30	
D32		〃	9.6	3.5	4.7	Ⅱ	50	
D33		〃	8.7	3.3	4.7		80	
D34		〃	9.5	3.5	4.5	Ⅱ	70	
D35		〃	9.2	3.3	4.8	Ⅱ	60	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
E 1		小　皿	10.0	3.7	4.7	Ⅱ	70	
E 2	17—20	〃	9.2	3.1	4.8	Ⅰ	90	
E 3		〃	9.5	3.2	5.1	Ⅱ	40	
E 4	17—21	〃	9.2	3.3	4.8	Ⅰ	90	
E 5	17—22	〃	9.2	3.1	4.6	Ⅰ	60	
E 6		〃	9.2	2.9	5.1	Ⅰ	50	
E 7		〃		3.1	4.6	Ⅱ	30	
E 8		〃	9.3	3.2	4.9	Ⅰ	90	
E 9		〃		3.0	5.0	Ⅰ	20	
E10		〃	9.8	3.3	4.8	Ⅱ	50	
E11		〃	9.0	3.4	5.0	Ⅰ	30	
E12		〃	9.3		4.8	Ⅱ	60	
E13	17—23	〃	9.2		5.1	Ⅰ	90	
E14		〃	9.7	3.6	5.1	Ⅲ	30	
E15	17—24	〃	10.0	3.7	4.9	Ⅰ	60	
E16		〃	9.2	2.7	5.1	Ⅰ	50	
E17		〃	9.7	3.3	4.7	Ⅰ	40	
E18	17—25	〃	9.5	3.5	5.0	Ⅰ	90	
E19		〃	9.2	3.3	5.3	Ⅰ	80	
E20		〃	9.8	3.6	5.0	Ⅱ	70	
E21		〃	9.6	3.6	5.1	Ⅲ	80	
E22		〃	9.5	3.3	4.6	Ⅰ	70	
E23		〃	9.5	4.1	5.1	Ⅱ	60	
E24		〃	9.3	2.9	5.1	Ⅱ	50	
E25		〃	9.8	2.3	5.0	Ⅱ	30	
E26		〃	10.0	4.0	5.0	Ⅲ	40	
E27	18—6	〃	9.5	3.1	5.0	Ⅱ	80	24—11
E28		〃	9.6	3.5	5.0	Ⅰ	40	
E29		〃	9.0	3.3	4.5	Ⅰ	40	
E30		〃	9.5	3.2	4.7	Ⅲ	70	
E31		〃	9.2	3.3	4.5	Ⅰ	50	
E32		〃	9.9	3.4	4.9	Ⅱ	90	
E33		〃	9.2	3.0	4.6	Ⅱ	60	
E34		〃	8.8	3.1	4.7	Ⅰ	60	
E35		〃	9.0	3.7	5.2	Ⅰ	50	
E36		〃	9.8	3.6	5.0	Ⅱ	50	
E37	18—7	〃	9.8	2.7	4.6	Ⅱ	50	
E38		〃	9.2	2.5	4.5	Ⅰ	100	
E39		〃		3.1	5.2	Ⅱ	60	
E40		〃	9.2	3.1	4.2	Ⅰ	60	
E41	18—15	〃	9.8		5.1	Ⅲ	100	
E43		〃		3.2	4.9	Ⅰ	30	
E44		〃		3.2	4.6	Ⅰ	40	
E45		〃		3.4	4.5	Ⅱ	40	
E46		〃		3.5	4.6	Ⅲ	40	
E48		〃	9.5	3.1	4.8	Ⅰ	90	
E49		〃		3.0	5.2	Ⅱ	40	

遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
E50		小　皿		3.5	4.1	▮	30	
E51		〃	9.3	2.7	4.8	I	50	
E54		〃	8.8			▮	70	
E55		〃	9.6	2.9	5.1		70	
F 1	17—26	〃	9.6	3.0	4.9	I	100	24－12
F 2		〃	9.3			▮	80	
F 3		〃	10.1	3.5	5.2	I	100	
F 4		〃	9.7	3.3	5.1	▮	90	
F 5		〃	9.4	3.4	4.5	▮	90	
F 7		〃	10.4	3.4	4.9	▮	90	
F 9		〃	8.8	3.1	5.0	▮	50	
F10		〃	9.5	3.2	5.1	▮	80	
F11		〃		3.5	4.7	▮	90	
F12		〃	9.6	3.5	5.3	▮	90	
F13		〃		3.3	4.4	▮	40	
F15		〃	8.9	3.5	4.8	I	50	
F17		〃	10.0	3.7	4.7	▮	70	
F18		〃	8.9	2.9	5.3	▮	40	
F19		〃	8.8	2.8	5.2	I	80	
F21		〃	9.5	3.3	4.3	▮	50	
F22		〃	9.8	3.1	4.6	▮	60	
F23		〃	9.8	3.2	4.6	▮	60	27－6
F24	17—27	〃	10.0	2.8	4.5	I	60	
F25		〃	9.2	3.1	4.4	I	70	
F27		〃	9.0	3.1	4.4	I	60	
F28		〃	9.1			I	80	
F29		〃	9.3	2.9	4.6		30	
F30		〃	9.8	3.5	4.9	▮	80	
F31		〃	9.6	3.2	4.7	▮	50	
F32		〃	9.5	3.2	4.9	▮	80	
F35	17—36	〃	9.4	2.5	5.2		50	
F36		〃	9.3	3.2	4.4	▮	70	
F37		〃	9.5	3.4	4.6	▮	50	
F38		〃	9.1	3.1	4.9	I	60	
F40		〃	9.9	3.1	4.4	▮	60	
F41		〃	8.5	2.6	5.1	▮	80	
F42		〃	9.1	2.8	4.9	▮	40	
F43		〃	9.8	3.0	4.7	▮	40	
F44		〃	9.5	3.1	4.3	▮	90	

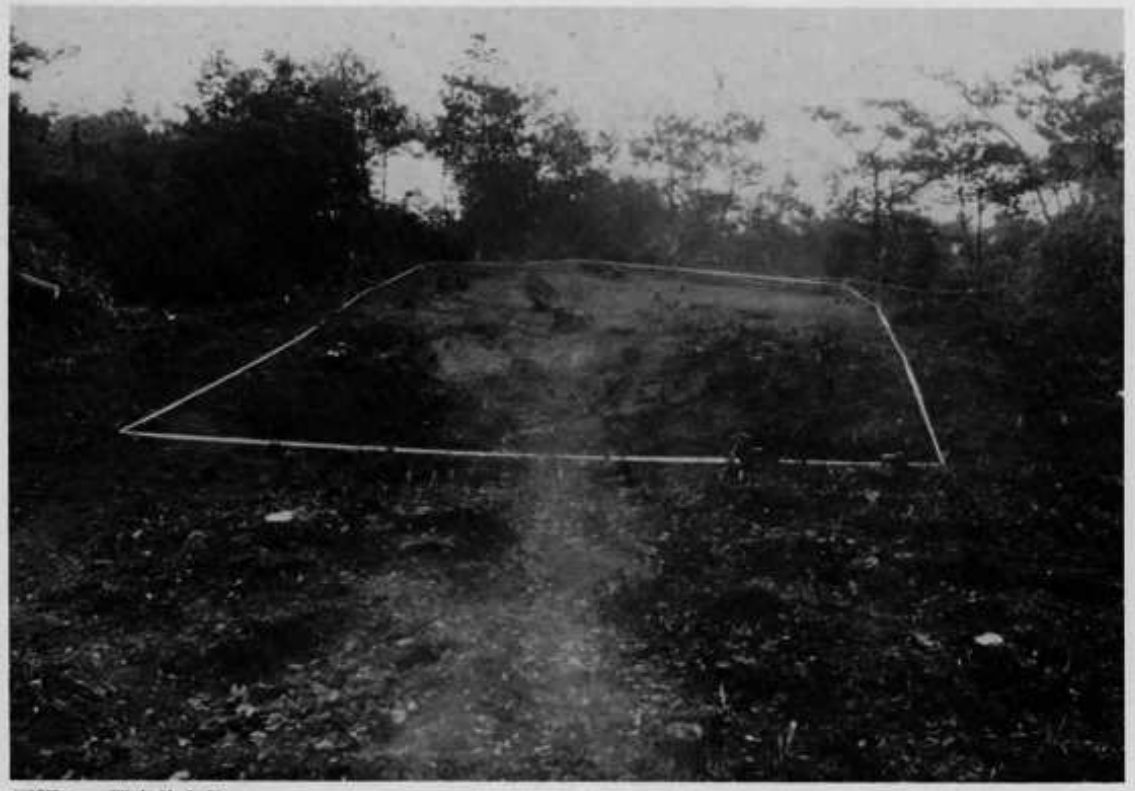
右袖部・窯内出土小皿計測表

遺物番号	挿図番号	器種	法量（cm）			器型	口縁部残存率（%）	図版
			口径	器高	高台径			
右ソ1		小皿	9.5			Ⅰ	80	25－1
右ソ2		〃	8.9	3.4	5.0	Ⅰ		
右ソ3	18—16	〃	9.2	3.2	4.7	Ⅰ	100	
右ソ5	18—17	〃	9.0	3.4	5.0	Ⅰ	90	25－2
右ソ6	18—18	〃	9.3	3.2	5.0	Ⅰ	80	
右ソ7		〃	9.8	3.0	4.7	Ⅰ	70	
右ソ8	18—19	〃	9.5	3.3	4.5	Ⅰ	70	
右ソ9		〃	9.5			Ⅰ	70	
右ソ10		〃	9.5	3.5		Ⅰ	60	
右ソ11	18—20	〃	9.3	3.3	5.2	Ⅰ	80	
右ソ13		〃	9.7	3.4	4.9	Ⅰ	60	
右ソ14		〃		3.2	5.0	Ⅰ	60	
右ソ15	18—21	〃	9.9	3.3	5.0	Ⅰ	100	25－3
右ソ16	18—22	〃	9.4	3.4	4.5	Ⅰ	80	
右ソ17		〃	9.4			Ⅰ	80	
右ソ18	18—23	〃	9.3	3.4	4.6	Ⅰ	70	
右ソ19	18—24	〃	9.1	3.2	5.0	Ⅰ	100	25－4
右ソ20		〃	9.7	3.3	4.6	Ⅰ	80	
右ソ21	18—25	〃	9.8	3.4	4.8	Ⅱ	70	
右ソ22		〃	9.5	3.2	4.9	Ⅰ	80	
右ソ23		〃	9.4	3.5	5.0	Ⅱ		
右ソ24	18—26	〃	9.0	3.5	4.5	Ⅰ	80	
右ソ25	18—27	〃	9.6	3.4	5.3	Ⅰ	90	
右ソ26	18—28	〃	9.5	3.4	4.8	Ⅰ	100	25－5
右ソ27		〃	9.0	3.4	4.9	Ⅰ	70	
右ソ28	18—29	〃	9.3	3.1	5.2	Ⅰ	80	
右ソ29	18—30	〃	9.5	3.4	5.0	Ⅱ	70	
右ソ30		〃	9.1	3.2	4.6	Ⅰ	70	
右ソ31		〃	9.2	3.4	5.2	Ⅰ	90	
右ソ32		〃	9.3	3.0	4.6	Ⅰ	50	
右ソ33		〃	8.6	3.3	4.8	Ⅰ	50	
右ソ34		〃	9.5	3.4	4.9	Ⅰ	90	
右ソ35	18—31	〃	9.4	3.4	5.1	Ⅰ	90	25－6
右ソ37		〃		3.0		Ⅰ	50	
右ソ38	18—32	〃	9.9	3.5	4.6	Ⅰ	80	
右ソ39		〃	8.7	3.3	5.0	Ⅰ	75	
右ソ40		〃	8.9	3.1	5.0	Ⅰ	50	
右ソ41		〃	9.3	3.2	5.0	Ⅰ	70	
右ソ42		〃	9.2	3.4	4.9	Ⅰ	60	
右ソ43		〃	9.5			Ⅰ	70	
右ソ44		〃	9.0	3.3	4.8	Ⅰ	55	
右ソ45		〃	9.1	3.4	5.1	Ⅰ	60	
右ソ46		〃	9.1	3.0	4.9	Ⅰ	70	
右ソ47	18—33	〃	9.4	3.2	5.4	Ⅰ	75	
右ソ48	18—34	〃	9.3	3.3	5.4	Ⅰ	80	
右ソ49		〃	9.3	3.4	4.7	Ⅰ		
右ソ50		〃	9.5	3.3	4.1	Ⅱ	90	

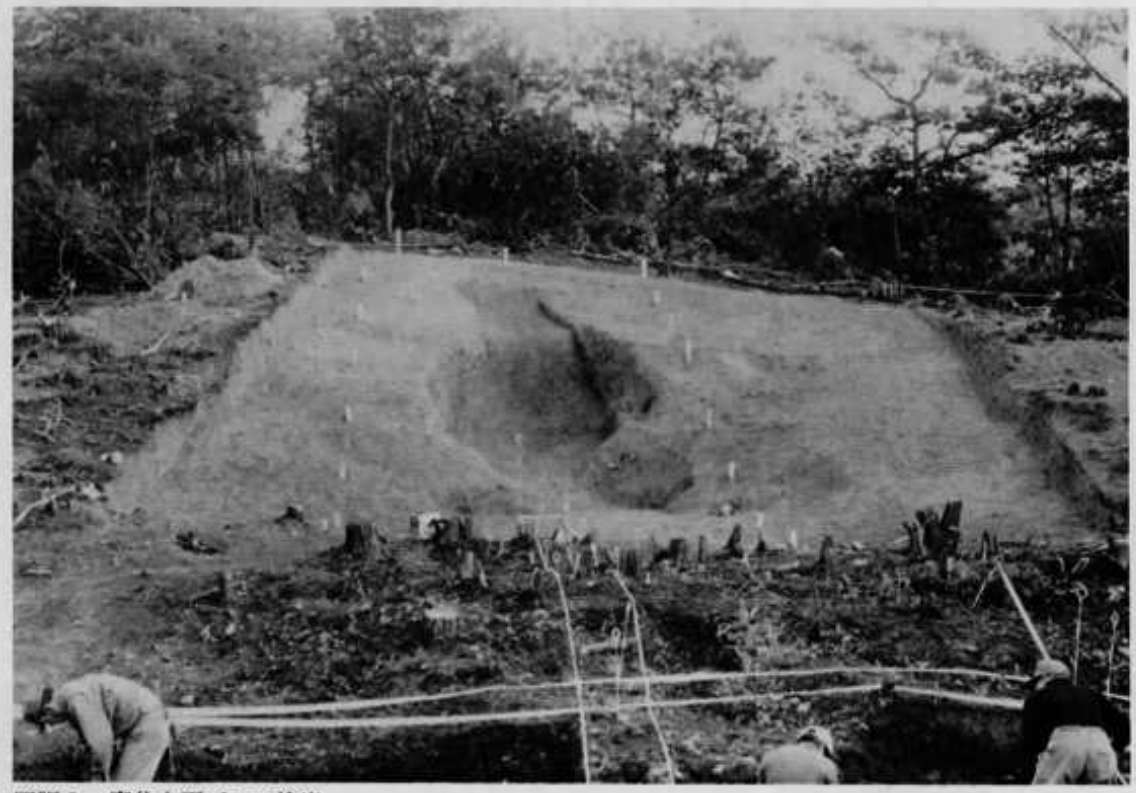
遺物番号	挿図番号	器　種	法量（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
右ソ51		小　皿		3.1	4.9	Ⅰ	50	
右ソ52		〃	9.3	2.7		Ⅰ	75	
右ソ53		〃	9.1	3.5	4.1	Ⅰ	60	
右ソ54		〃	9.3	3.5	5.2	Ⅱ	50	
右ソ55		〃		3.5	4.9	Ⅰ	70	
右ソ56	18—35	〃	9.4	3.2	4.9	Ⅰ	80	
右ソ57		〃	9.0			Ⅰ	50	
右ソ58		〃	9.1	3.2	5.3	Ⅰ	75	
右ソ59		〃	8.9	3.3	4.1	Ⅱ	50	
右ソ60		〃	9.0	3.1	4.2	Ⅰ	50	
右ソ61	19—1	〃	9.2	3.3	5.0	Ⅰ	60	25—7
右ソ62		〃	9.2	3.3	5.0	Ⅰ	60	
右ソ67		〃	9.2	3.2	5.0	Ⅰ	75	
右ソ69		〃	9.0	3.2	4.5	Ⅰ	60	
右ソ70		〃	9.8	3.0	4.4	Ⅰ	60	
右ソ71	19—19	〃	9.3			Ⅱ	50	
右ソ72		〃	9.6	3.6	4.3	Ⅰ	80	
右ソ73		〃	9.0	3.2	4.3	Ⅰ	80	
右ソ74	19—2	〃	9.1	3.1	5.1	Ⅰ	70	
右ソ75	19—3	〃	9.5			Ⅱ	70	
右ソ76	19—4	〃	9.5	3.1	5.1	Ⅰ	70	
右ソ77		〃	8.8	3.5	4.9	Ⅱ	60	
右ソ78	19—5	〃	9.1	3.2	5.1	Ⅰ	70	
右ソ79	19—6	〃	9.5	3.5	4.6	Ⅰ	75	
右ソ80		〃	9.2	3.3		Ⅰ	80	
右ソ81		〃	9.1	3.3	5.2	Ⅰ	70	
右ソ82		〃	8.8	3.1	4.9	Ⅰ	60	
右ソ83		〃	9.3	3.1	5.5	Ⅰ	70	
右ソ84		〃	9.4	3.3	4.5	Ⅰ	55	
右ソ85	19—7	〃	9.2	3.2	5.3	Ⅰ	95	25—8
右ソ86		〃			5.0	Ⅰ	75	
右ソ87		〃	9.0	3.1	5.1	Ⅰ	45	
右ソ88		〃	8.9	3.3	4.8	Ⅰ	55	
右ソ89	19—8	〃	9.5	3.6	4.9	Ⅰ	100	
右ソ90	19—9	〃	9.4	3.4	4.4	Ⅰ	85	
右ソ91	19—10	〃	9.5	3.5	4.9	Ⅰ	70	25—9
右ソ92		〃	9.4	3.3		Ⅰ	80	
右ソ93	19—11	〃	9.0	3.1	4.7	Ⅰ	100	
右ソ94		〃	9.0			Ⅰ	80	
右ソ97		〃	8.9	3.0	4.7	Ⅰ	50	
右ソ98		〃	9.1	3.1	4.6	Ⅱ	50	
右ソ99		〃	9.6	3.3	5.3	Ⅰ	75	
右ソ100		〃	9.4	3.1	4.5	Ⅰ	60	
右ソ104		〃	9.5	3.3	4.9	Ⅰ	50	

遺物番号	挿図番号	器　種	法　量　（cm）			器　型	口縁部残存率（%）	図版
			口　径	器　高	高台径			
内1	19—12	小　皿	9.0	2.9	4.9	I	80	
内2	19—13	〃	9.0	3.5	4.9	I	80	25－10
内3	19—14	〃	8.9	3.2	5.0	I	80	25－11
内4	19—15	〃	9.0	3.4	5.0	I	90	25－12
内5	19—16	〃	8.7	3.2	5.0	I	60	
内6	19—17	〃	9.4	3.6	4.8	I	80	
内7	19—18	〃	9.5	3.1	5.0	I	70	

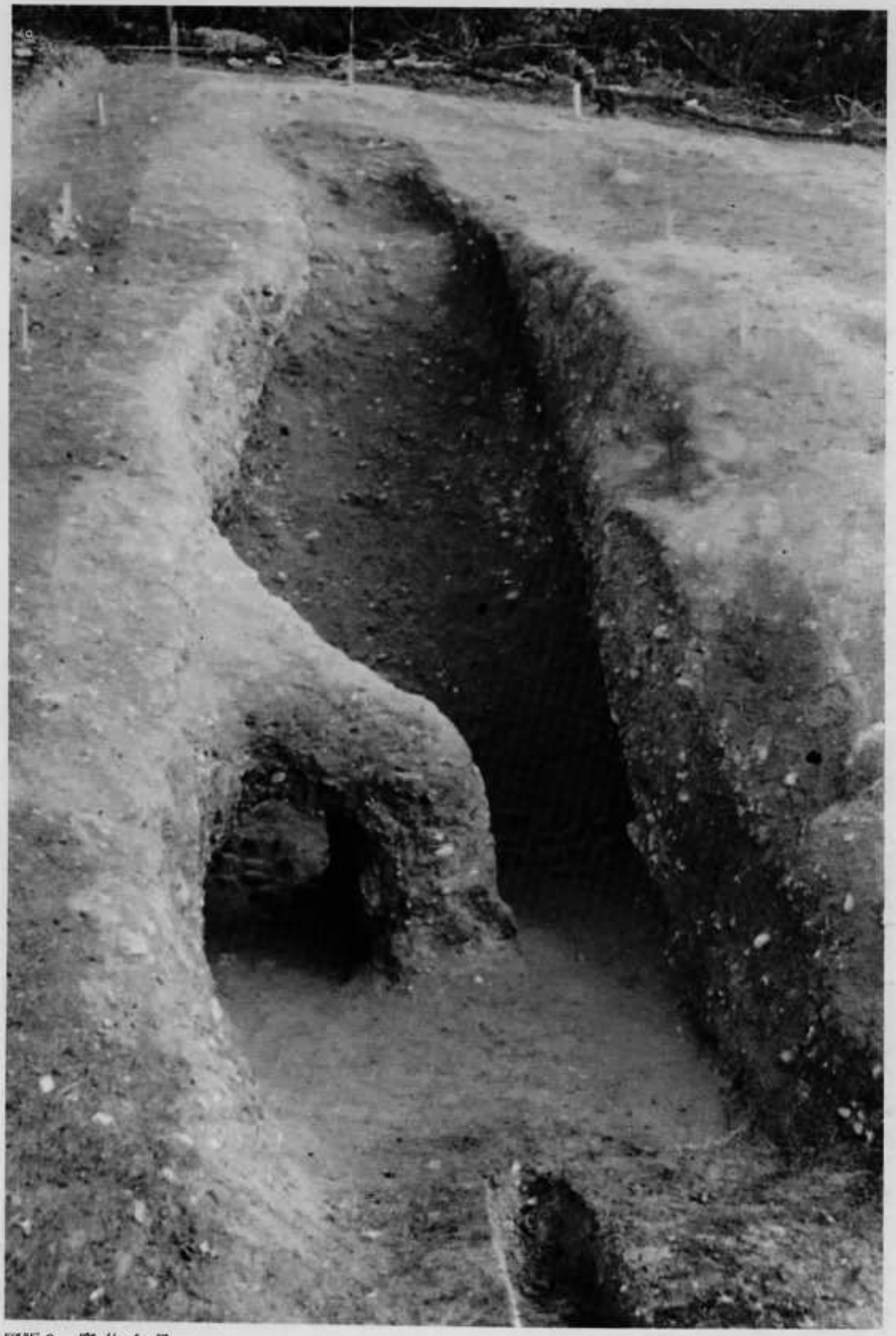
图　版



図版１　調査前全景



図版２　窯体上面プラン検出



図版3　窯体全景

図版4　煙　道　部

図版5　焼　成　室

図版 6　燃焼室　分炎柱（正面より）

図版 7　天井壁残存状況（焼成室より）

図版 8　焼成室下部遺物出土状況

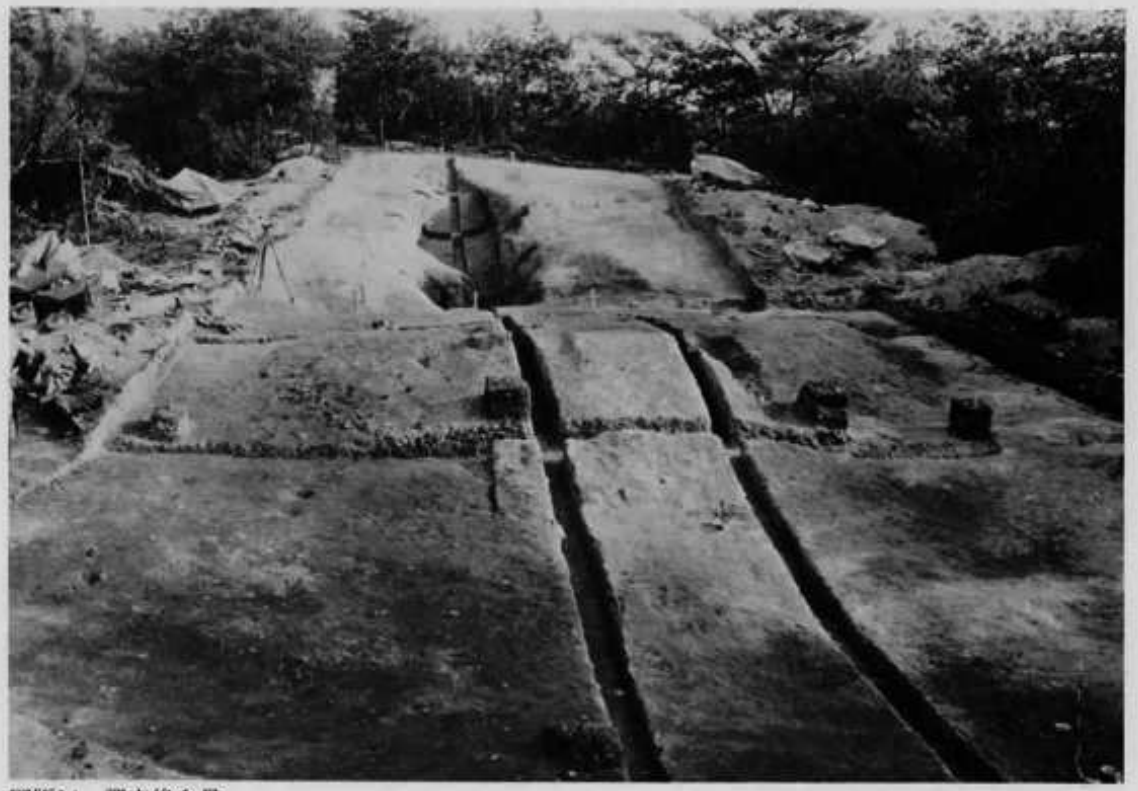
図版 9　原位置を保つ焼台

図版10　焼成室右壁

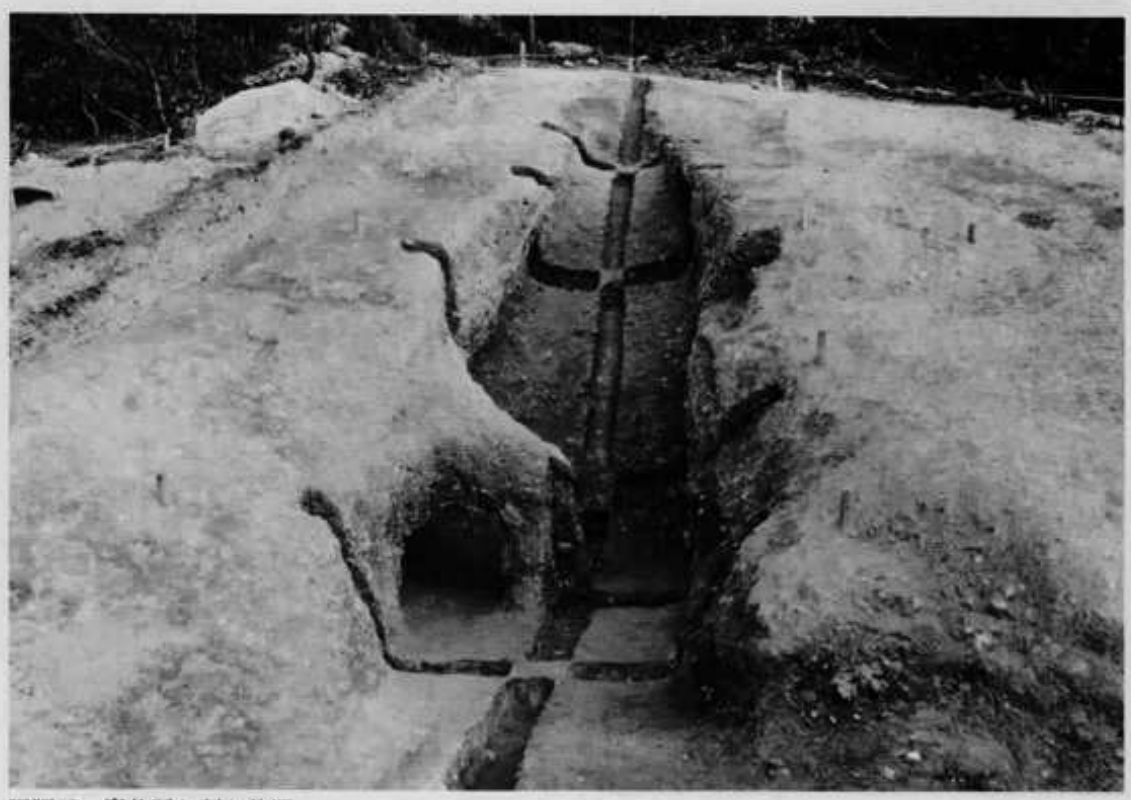
図版11　天井壁にみられる粘土の貼付

図版12　焚口右袖部遺物出土状況

図版13　焚口右袖部



図版14　調査後全景



図版15　窯体断ち割り状況

図版16　窯体焼成室断面

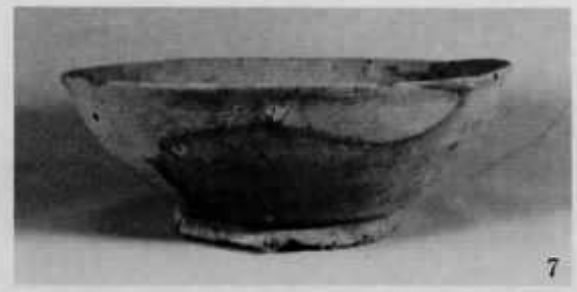
図版17　分炎柱断面

図版18　分炎柱断面にみられるスサ入粘土の貼り付け

図版19　前庭部平坦面の断ち割り，排水溝，左袖部

図版20　前庭部ピット

図版21　灰原断面



図版22　灰原出土椀

図版23　右袖部・窯内出土椀

1

2

3

4

5

6

7

8

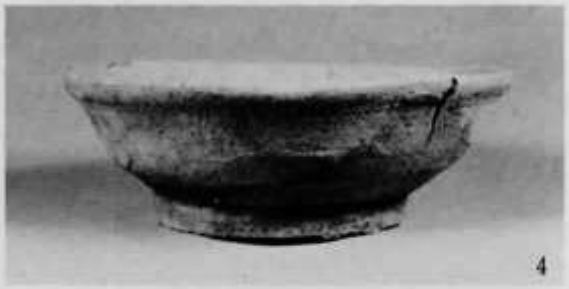
9

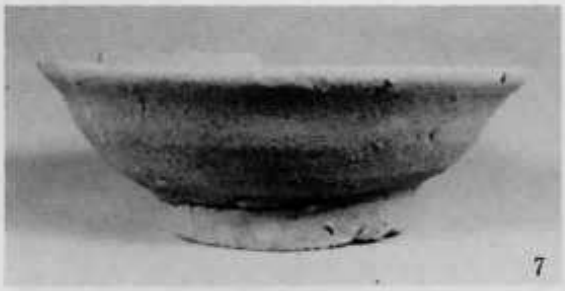
10

11

12

図版24　灰原出土小皿





図版25　右袖部・窯内出土小皿

1 椀重ね焼状況（11段）

2 小皿重ね焼状況（9段）

3 輪花椀（C区）

4 輪花椀（F区）

5 片口鉢（右袖）

6 片口鉢（右袖）

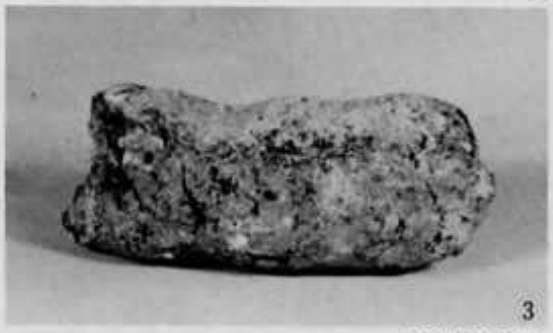
7 片口鉢（E区）

8 鉢（C区）

図版26　出土遺物

1
高杯(F区)

2
高杯(F区)



3
窯道具(窯内)

4
椀高台(F区)

5
輪花技法

6
小皿高台(F区)

7
胎土にみられる大つぶの石(椀)

8
焼台(窯内)

9
焼台(窯内)

図版27　出土遺物

下切兎田古窯発掘調査報告書

昭和60年3月31日　発行

発　行　可児市教育委員会
〒509-02
岐阜県可児市広見1－1
電話（0574）62－1111

印　刷　株式会社　太　洋　社